

JCCA

Japan Civil Engineering Consultants Association

ズーム イン ちゅうぶ
図夢in中部

2026 Vol. 57

名古屋都心部での
SRTの運行開始

一まちづくりと連携した
新たな価値の創出に向けてー



一般社団法人

建設コンサルタンツ協会 中部支部

描けます、 あなたの夢を



協会コンセプト

協会会員は、豊かな未来に向けて
今なにをすべきか、
専門的知識を持って、
具現化のアシスタントを
いたします

C O N T E N T S

図夢in中部 Vol.57

目次

1 巻頭言

副支部長 1

2 特集

名古屋都心部でのSRTの運行開始
-まちづくりと連携した新たな価値の創出に向けて- 2

3 投稿

社会人生活をふりかえり 10
災害派遣に従事する 10
3年目社会人の奮闘 10
最適解を探る 12
技術者として「これまで」と「これから」 12
入社からこれまでに振り返って 12

4 支部会員会社紹介 14

5 協会活動紹介 16

6 会員名簿一覧 30

7 事務局だより 32

8 編集後記 33

—これからの建設コンサルタント の果たすべき役割—

～変革期の国土づくりを支える建設コンサルタントの新たな価値～

一般社団法人
建設コンサルタンツ協会 中部支部

副支部長 三矢 寿



人口減少の本格化、巨大災害リスクの高まり、気候変動への対応、そして社会インフラの急速な老朽化。我が国の国土と地域は、これまでの延長線上では対応しきれない課題に直面しており、いままさに大きな転換点、いわば「変革期」を迎えています。こうした時代認識のもと策定された第三次国土形成計画では、「新時代に地域力をつなぐ国土」を将来像に掲げ、地域生活圏の形成、持続可能な産業構造への転換、グリーン国土の創造、人口減少下における国土利用・管理などを明確に示しました。国土づくりは、従来の量的拡大を志向する段階から、質を高め、地域の力を結び付けていく段階へと大きく舵を切っています。

また、今年1月に閣議決定された第6次社会資本整備重点計画では、インフラマネジメントを政策の中心に据え、防災・減災や国土強靱化に加え、DX・GXの推進、担い手の確保と生産性向上を重要な柱として位置付けています。社会資本は「新たに整備するもの」だけでなく、「既存ストックをいかに賢く使い、次代につなぐか」が問われる時代となりました。

これらの政策方針を具体化した令和8年度国土交通省予算では、国民の安全・安心の確保、持続的な経済成長の実現、個性を生かした地域づくりを三本柱とし、防災対策やインフラ老朽化への対応、地域交通の再構築などが重点的に進められています。

中部地域に目を向けると、中部地方整備局関係予算として、流域治水の加速化、南海トラフ巨大地震対策、道路・港湾ネットワークの強化、ダム再生事業など、地域の命と暮らし、さらには日本全体の産業活動を支える重要な施策が着実に進められています。日本のものづくりと物流を支える中部圏は、この変革期の国土づくりにおいて、極めて重要な役割を担っています。

こうした環境変化の中で、建設コンサルタントに求められる価値も、確実に変わりつつあります。従来の技術的な調査・設計や発注者支

援に加え、国土や地域の将来像を見据えた構想づくり、さらには多様な関係者をつなぎ、合意形成を支える役割が、これまで以上に重要になっています。人口減少社会においては、すべてを同じように維持するのではなく、選択と集中、機能の再編や連携が不可欠です。その中で、地域の実情を踏まえ、現実的で持続可能な選択肢を示せる点に、建設コンサルタントの新たな価値があると考えます。さらに、予防保全型の維持管理やデジタル技術の活用を通じて、インフラの価値を長期的に高めていくことも重要な使命です。点検・診断・更新といったプロセスを高度化し、限られた財源と人材の中でインフラを持続的に活用していくためには、個別分野にとどまらない横断的な視点と実践力が求められます。

また、流域治水、脱炭素、地域交通の再構築といった課題は、行政のみならず、民間、住民、学術機関など多様な主体との連携なしには実現できません。こうした場面において、専門技術と社会を結び付ける「橋渡し役」としての建設コンサルタントの役割は、今後ますます重要性を増していくでしょう。

加えて、中部支部としても、中部地方整備局や各県・関係機関との意見交換を重ねるとともに、業務技術発表会・講習会・現場見学会等を通じた技術研鑽、さらには学生交流の場づくりなど、次代を担う人材の裾野拡大に向けた取り組みを進めています。

建設コンサルタントは、地域の現場に寄り添いながら、変革期の国土づくりを実務面から支える存在です。第三次国土形成計画が示す「地域力をつなぐ国土」の実現に向け、中部地域から先導的な取り組みを積み重ね、社会にとってなくてはならない新たな価値を創出していくことが、私たちに期待されている使命だと考えます。

その自覚と誇りを胸に、引き続き中部地域、そして我が国の持続可能な発展に貢献していきたいと考えます。

名古屋都心部でのSRTの運行開始

—まちづくりと連携した新たな価値の創出に向けて—

名古屋市 住宅都市局 交通事業推進課長 やまおか ますみ 山岡 真澄



1. はじめに

名古屋市の都心部は、名古屋駅、名古屋城、栄、大須で囲まれるエリアです。名古屋駅ではリニア中央新幹線の開業を見据えた駅前広場等の再整備、栄では久屋大通公園の再生や周辺での民間再開発が進んでいます。こうした中、都心部の回遊性向上や賑わい拡大を図るSRT(Smart Roadway Transit)が、まずは名古屋駅—栄間で令和8年2月に運行を開始しました。

ここでは、SRTの取組経緯や目指す方向性、運行開始後の状況などを紹介します。

2. SRTの取組経緯

(1) 計画等での位置づけ

名古屋市では、平成23年に「なごや新交通戦略推進プラン」を策定し、名古屋の広い道路空間を人が主役の空間へと転換することを目指す「みちまちづくり」をリーディングプロジェクトに掲げました。

その実行計画として平成26年に策定した「なごや交通まちづくりプラン」では、「道路空間の主役転換」「自動車の都心部への集中緩和」「移動手段の多様化」を取組の3本柱とし、都心部における新たな路面公共交通システム(LRTやBRT)の導入検討を位置づけました。



図-1 都心部の「みちまちづくり」イメージ
(なごや新交通戦略推進プラン)

その後の検討を踏まえ、名古屋市ではLRTの存在感やBRTの柔軟性をあわせ持つ、先進的で魅力的なタイヤベースのシステムを目指すこととし、平成31年にはSRT(Smart Roadway Transit)という独自の名称を付けた構想を策定しました。令和5年には、現在の総合交通計画となる「名古屋交通計画2030」の中でSRTの段階的な導入を示し、当初運行は名古屋駅と栄を賑わいの軸である広小路通でつなぎ、シンボル性や快適性を備えた連節バスを導入する方針としました。

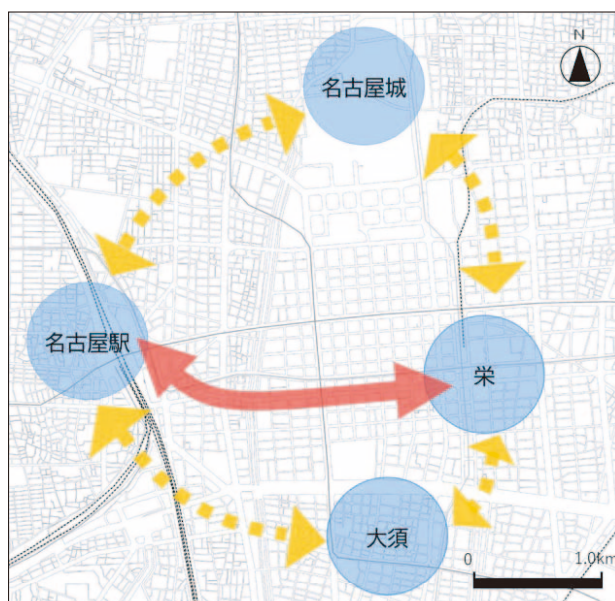


図-2 SRTの段階的な導入(名古屋交通計画2030)

(2) 連節バスの走行社会実験

令和4年度には、他都市から連節バスを借用し、名古屋駅と栄をつなぐ広小路通を中心に試走し、モニターの体験乗車や交通影響の検証を行いました。体験乗車モニターのアンケートでは、普通のバスと比較して連節バスの方を利用したいと思う人が7割以上でした。また、沿道からも多くの注目を集め、歩行者へのアンケートでは、都心にこういう(連節)バスが走るといいと思う人は8割以上という結果が得られました。



写真-1,2 連節バス走行社会実験(令和4年度)



写真-3 バイ型停留所での乗降(広小路通)



写真-4 テラス型停留所の社会実験

(3) テラス型停留所の社会実験

SRTの運行ルートとなる広小路通は片側2車線であり、停車帯が広く路上駐車も多いため、既存の歩道を切り欠いたバイ型の停留所ではバスが寄せにくく、利用者が乗降しにくい状況が生じていました。SRTで導入する連節バスは車体が18mと長いことも考慮し、停車帯に歩道を拡幅することでバス車両のスムーズな停車や乗降とともに、停留所における空間のゆとりや賑わいの創出を目指すこととしました。

こうした方針を踏まえ、令和5年度には既存の路線バス停留所2か所で、仮設デッキにより歩道を拡幅する社会実験を行い、歩道の拡幅部分や沿道敷地の活用による待合区間の快適性向上にも取り組みました。社会実験中のヒアリングによると、バスの乗降がしやすくなったと回答した利用者、バスの停車がしやすくなったと回答した運転手は、いずれも7割以上という結果でした。また、第1車線上でバス車両が停車して利用者の乗降を行うため、自動車交通への影響もビデオカメラで調査したところ大きな問題は見られず、道路管理者や警察とも協議して本格的な整備へとつなげました。

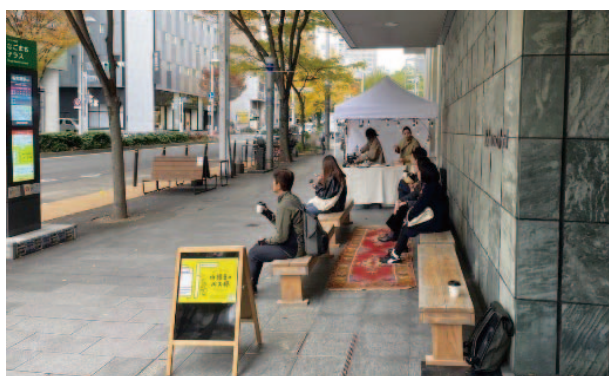


写真-5 停留所付近での沿道敷地を活用した取組

(4) トータルデザインの検討

都心部の回遊性向上や賑わい拡大を図るSRTにとって、まちの魅力を高めるデザインが重要となります。そのため、まちなみとの調和や名古屋らしさを重視し、車両や停留所に統一感を持たせたトータルデザインの検討を行いました。デザインは他都市の交通システムでも実績が豊富な(株)GK設計が担当し、有識者も交えながら議論を深め、令和6年に公表しました。

「都心風景の未来を先導」というデザインコンセプトのもと、シンボルカラーはアーバンゴールドを採用し、街路樹の木漏れ日を抽象化したパターンも取り入れています。バス車両は通常、まちなかで目立つ青や赤などの原色をアクセントとする傾向が見られますが、SRTでは「まち側が主役」という考え方で、まちの魅力や活動を引き立てるデザインを意識しています。

また、車内空間についても、従来のバスには無い新しい移動体験を提供したいという想いから、まちなみを楽しみながら移動できるよう、座席を撤去してカウンターやテーブルを設置する提案を受け、実現に向けて調整を進めました。



図-3 まちなみと調和した車両外観



図-4 停留所のイメージ



図-5,6 車内空間のイメージ

3. 名古屋駅-栄ルートの実行準備

(1) 車両の調達・改造

当初運行のSRT車両として連節バス1両の入札を行った結果、車種はダイムラーバス製のシターロGとなりました。その後、SRTのトータルデザインを反映するため、タイヤスパッツを含む外装部材の取付とともに、車内にはカウンターやテーブルの設置、床材やシート貼り替え等の改造を行いました。



写真-6,7 改造前の連節バス(外装、車内前方)

また、移動を楽しめる車内空間の演出として、トヨタ紡織(株)が開発する「MOOX-RIDE」を路線バスでは初めて実装しました。車窓に設置した透過型ディスプレイにより、車両の走行位置に合わせたコンテンツ提供が可能で、まちの魅力発見や回遊行動の誘発につなげたいと考えています。MOOX-RIDEは広告枠の活用や企業協賛のもとで運営し、一部では学生のアイディアも取り入れながらコンテンツを更新していく予定です。



写真-8,9 改造後のSRT車両(外装、車内前方)



写真-10 透過型ディスプレイでの情報発信(MOOX-RIDE)

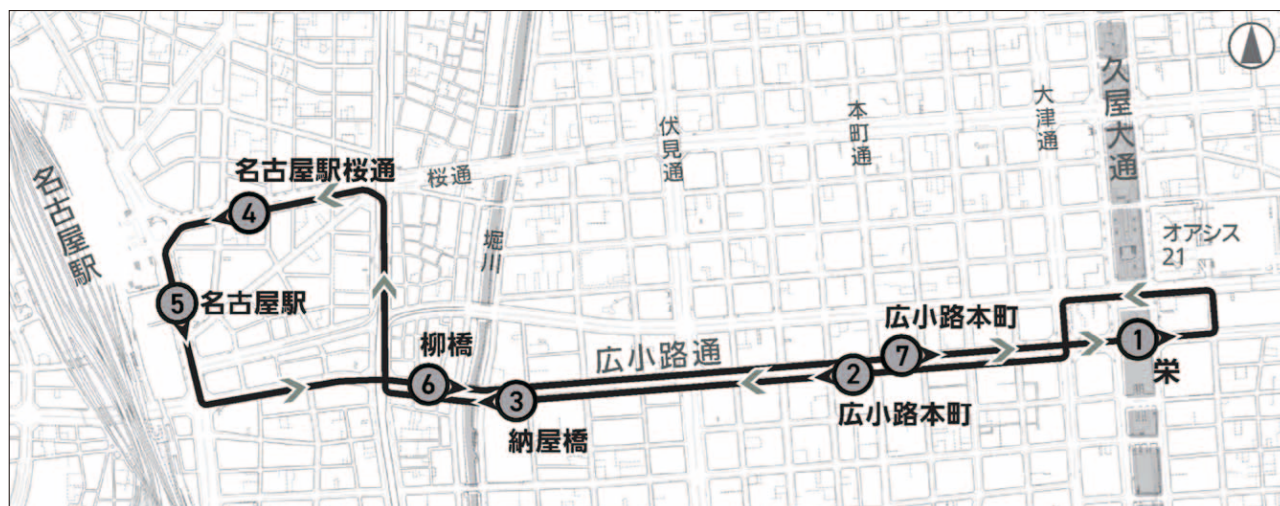


図-7 名駅-栄ルートの停車箇所

(2) 停車箇所の選定と停留所の整備

名古屋駅-栄ルートは図7に示すように、栄(①)を起終点として主に広小路通を走行します。途中の停車箇所については、まちづくりとの連携を考慮しつつ、堀川と交差する納屋橋エリア(③⑥)、名古屋城をつなぐ南北軸の本町通エリア(②⑦)を選定し、令和5年度の社会実験も踏まえ、歩道を停車帯に拡幅したテラス型の停留所を整備しました。なお、拡幅の際には車両床と歩道の高さを近づけ、利用者のスムーズな乗降に資するよう歩道の嵩上げを行っています。

また、既存の広告付きバス停上屋がある①②③⑥の4か所は、SRTのトータルデザインを反映した広告付き上屋の停留所に置き換えて他の路線バスと共同利用する一方、④⑤⑦の3か所は物理的な制約もあり、標柱型の停留所としました。7か所の停留所には全てデジタルサイネージを設置しており、車両の走行位置や混雑状況をリアルタイムに表示する他、沿線のイベント情報なども発信しています。



写真-11 テラス型の停留所(⑦広小路本町)



写真-12 上屋型のSRT停留所(①栄)



写真-13 標柱型のSRT停留所(⑤名古屋駅)

(3) 運行サービスの決定

SRTの運行事業者は名古屋市が公募を行い、名鉄バス(株)を選定しました。当初は連節バス1両であることを踏まえた公募条件をもとに協議した結果、金～月曜日と祝休日の9時台～17時台に1日12本の運行としています。

運賃は市内の路線バスに合わせて210円均一であり、現金や交通系ICカードの他、クレジットカード等によるタッチ決済も使用できます。割引運賃としては、クレジットカード等によるタッチ決済で1日500円

の上限額設定を設けたほか、名古屋鉄道(株)が運営するMaaSアプリ「CentX」でQR一日乗車券を500円で販売しています。また、交通モード間や沿線施設との連携で、SRTが停車する納屋橋エリアから名古屋城を舟運でつなぐ堀川クルーズや、栄のシンボルであるテレビ塔の展望とSRTの一日乗車券をセット券としたメニューもあります。

連節バスには扉が3つありますが、SRTでは全ての扉に交通系ICカード、タッチ決済、QR乗車券の読取り機器を設置し、現金や複数人乗車などの利用を除き、全屏での乗降を可能としているのも特徴です。これにより、運賃収受の分散や車内移動の減少を図り、多客時であってもスムーズな乗降を実現しています。



写真-14 タッチ決済及びQR乗車券の読取り機器



図-8 SRT一日乗車券と堀川クルーズのセット券

4. 運行開始後の状況

(1) 利用状況と課題への対応

2月13日からの運行開始当初は、各種メディアに取り上げられたこともあり、非常に多くの利用者が集中しました。特に起終点の栄と、交通結節点である名古屋駅の停留所では休日の昼間を中心に100名近くが停留所に並ぶ状況も見られました。こうした中で複数扉の乗降や多様な決済手段など、従来の路線バスとは利用方法も異なるため混雑が生じることも想定し、誘導員を配置して待ち客の整列や

利用方法の案内など対応を行いました。

現在は利用者数も落ち着いてきており、SRTの乗降方法に慣れてきた利用者も増えたため、誘導員に頼らず運行可能な状況となってきています。また、利用者数や道路状況によって運行の遅延も発生していますが、車両の走行位置情報を停留所のデジタルサイネージやSRTのウェブサイトでリアルタイムに提供することで、車両を待つことによるストレスや不安を軽減しています。



写真-15 誘導員による待ち客の整理



図-9 車両の走行位置表示

(2) 利用者等へのアンケート

2月の運行開始に合わせ、SRT利用者や沿道の歩行者の反応を確認するためのアンケート調査を行いました。開業から間もない時期で車内が混雑する便も見られましたが、9割近くの利用者がSRTについて「満足」または「どちらかといえば満足」という結果でした。中でも良かった点として「車両デザインや車内空間」や「全屏での乗降」などを挙げる人が多く、半数以上の利用者から「また利用したい」という回答が得られたため、SRTの特徴である「移動価値の提供」について一定の評価をいただけていると受け止めています。また、利用者の6割以上がSRT運行による都心風景の変化を感じるとしており、まちの魅力向上や賑わい創出につなげていくことが重要と考えています。

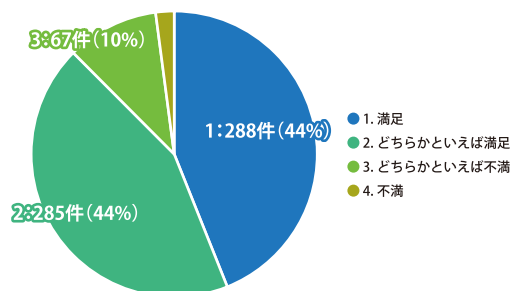


図-10 利用者アンケート(総合的な満足度)

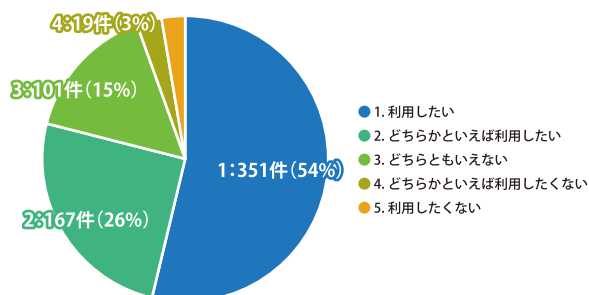


図-11 利用者アンケート(また利用したいか?)

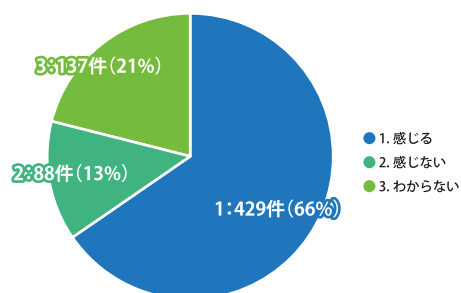


図-12 利用者アンケート(SRT運行による都心風景の変化)

(3) SRT公式グッズの発売

SRTの運行開始に合わせ、(株)名鉄生活総研が運営する名鉄商店においてSRT公式グッズが発売されました。SRTのロゴマークや車両デザインを取り入れたボールペン、マイクロファイバータオル、キーホルダー、Tシャツ、車両(連節バス)ボックス入りラムネ菓子が商品化されており、SRTのPRにも活用できる他、旅行や視察の手土産としても購入いただけます。



写真-16 SRT公式グッズ(ラムネ菓子)

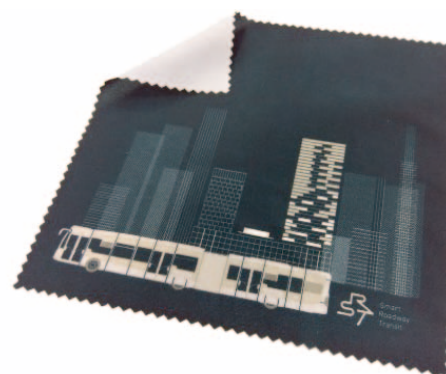


写真-17 SRT公式グッズ(マイクロファイバータオル)

5. まちの価値向上に向けた取組

SRTは単に移動手段ではなく、従来のバスには無い「移動価値の提供」や「まちと人の距離を近づける」特徴を持つ「まちづくりの装置」と位置付けており、名古屋都心部の賑わいや回遊性の向上、また、公共交通・歩行者中心のウォーカブルな空間形成を通じた「まちの価値向上」を目指しています。

「移動価値の提供」については、従来のバス交通が場所から場所への移動で目的地の魅力に依存するのに対し、SRTでは移動そのものが魅力となるような仕掛けを施すことで、訪れる動機づけが弱い場所にも足を運ぶきっかけとなるものと考えています。次に「まちと人の距離を近づける」については、従来の停留所がバス移動する人のための空間であり、そこでの時間も移動のための待ち時間となるのに対し、SRTでは停留所と車両を意匠性だけでなく行為を誘発するデザインとし、まちの情報等によりコトが起るきっかけをつくっていきます。

乗ってみたい！ 移動も含めた魅力



図-13 SRTの特徴「移動価値の提供」イメージ



図-14 SRTの特徴「まちと人の距離を近づける」イメージ

(1) 地域や企業とのイベント連携

SRTの運行開始に合わせ、地域のまちづくり団体や企業が主催するイベント等が行われ、相互の情報発信や賑わい創出につなげることができました。この

ようにSRTの運行を通じて、まち側の様々な反応を生み出していくことが重要と考えており、まちの魅力や活動をつなぐ仲介役として、まちとSRTと一緒に成長できるよう取り組んでいます。



写真-18 SRT停留所付近でのイベント連携

(2) SRTを契機とした広小路のまちづくり

名古屋駅一栄ルートの主要な経路である広小路は、名古屋市の都市景観形成地区に指定されており、地域とも協力して以下に示すような景観形成基準のもと取組を進めてきました。

【広小路における景観形成基準の例】

- ・オープンスペースや歩行者空間を創出するため、1・2階部分は壁面の位置（道路境界線から2.5m以上または1.5m以上）を定め、工作物等を設置しない。
- ・1階部分は物販、飲食、サービス業を営む店舗など、まちの賑わいづくりに配慮した用途の導入や、ショーウィンドウの設置など、まちの賑わい演出に努める。
- ・駐車場は広小路通に面して出入口を設置せず、外周の緑化等に努める。

令和6年度からは、ウォーカブルなまちづくりを進める方針のもと、景観形成基準により生み出された建築物の壁面後退スペースにおいて、ベンチやテーブル、パラソルの設置など、滞在快適性の向上や歩行者の利便増進を図るための環境整備に助成する制度を設けました（Nagoまちテラス助成制度）。また、令和7年度には景観形成基準の部分見直しなど名古屋市景観計画の変更を行い、広小路ではSRTが走る都心風景の魅力を高める沿道デザインとするため、建物側においてSRTを活かした取組や、調和したデザインを取り入れることで、一体的な景観づくりを進めることとしています。

一方で、近年は工事費の高騰等による影響を受け、都心部でも建築物の建替えが進まず、低未利用

地が点在している状況が見られます。そのため、SRTが走る広小路沿道における広場空間の創出や空間活用の見える化など、低未利用地の利用促進や既存の公開空地等の活用を図る公民連携によるまちづくりを推進し、道路と民地の境目を越えて人が集まり、活動が生まれる空間を生み出していくことを目指していきます。

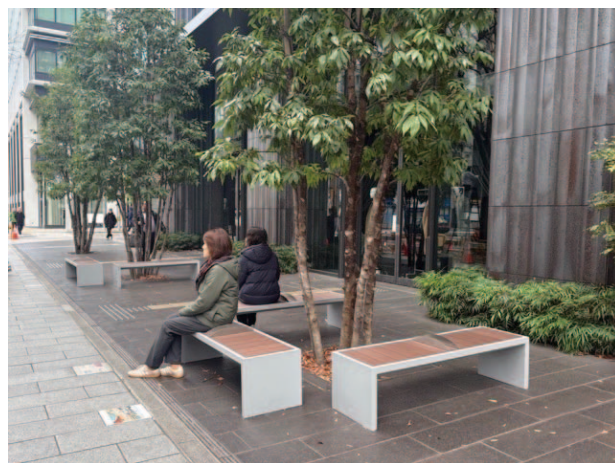


写真-19 Nagoまちテラスの事例



図-15 SRTが走る都心風景の魅力を高める沿道デザイン

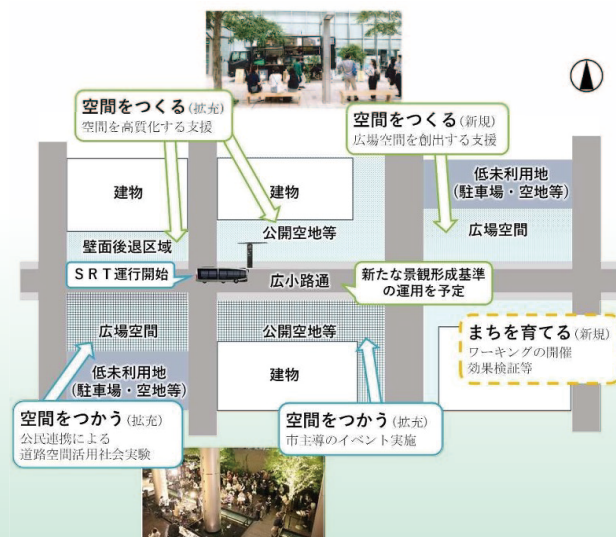


図-16 公民連携まちづくりの推進イメージ

6. 名古屋駅-名古屋城ルートの運行に向けて

2.(1)で紹介した平成31年のSRT構想や令和5年の名古屋交通計画2030では、名古屋駅と栄間のルートに加え、名古屋駅、名古屋城、栄、大須を周回するルートを位置付けています。この周回ルートの一部として、令和8年9月には新たに名古屋駅ー名古屋城間の運行を開始する予定です。

車両は、連節バス2両の製造を追加公告した結果、国産の日野自動車製となりました。1両目と同様、トータルデザインの反映やMOOX-RIDEの実装など、SRT仕様への改造を行っていきます。9月の運行開始時点では、9月～10月に当地で開催される第20回アジア競技大会・第5回アジアパラ競技大会に合わせ、改造前の車両に大会デザインのラッピングを施して運行する予定です。

停留所については、名古屋駅西側駅前広場に起終点となる停留所を設け、名古屋城エリアでは正門付近に停留所を整備します。途中では、地域の食文化を支える「柳橋中央市場」がある柳橋エリアや、歴史的な資源が残りレトロな商店街が賑わう那古野エリアをつなぎ、まちづくりの動きと連携しながら回遊性の向上や賑わいの創出を図っていきます。

また、名古屋城から名古屋駅までの経路は、名古屋駅東側における駅前広場の再整備に伴う工事を回避するため、当面は外堀通を経由するルートとしますが、整備状況に応じて名古屋駅東側を経由するルートへの変更を調整していきます。

その他の周回ルートは、現時点で運行時期が未定となっていますが、先行する名古屋駅ー栄ルートや名古屋駅ー名古屋城ルートでの運行状況、まちづくりとの連携による効果の検証を行いながら、事業化に向けた検討を進めていきます。



図-17 名駅ー名城ルートの停留所整備

7. おわりに

SRT構想の策定から7年かけ、計画への位置づけや社会実験、車両の改造や停留所の実備などを経て、名古屋駅ー栄間での運行を開始することができました。この間、地元の皆様をはじめ、国土交通省や関係企業等の方々に多くの協力をいただきました。

SRTのように、まちづくりを目的とした新たな交通システムの導入は全国的にも珍しい取組であり、その効果を十分に発揮するには地域や企業との連携が欠かせません。これまで事業を進める中で培ってきた関係性を継続・発展させながら、SRTを活かした名古屋都心部の更なる賑わいと魅力の向上に取り組みでいきたいと考えています。



写真-20 運行開始記念式典でのテープカット (中央が市長)

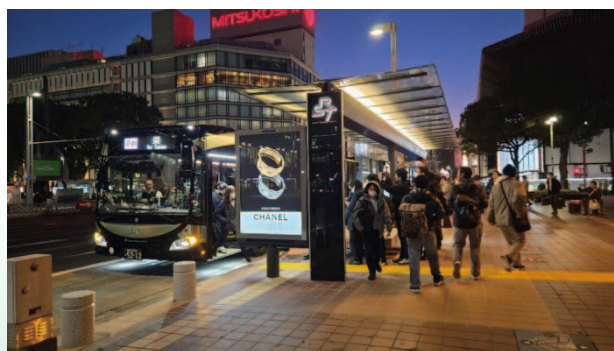


写真-21,22 運行開始後のSRTの様子

社会人生活をふりかえり



愛知県 尾張建設事務所 河川整備課 主査

森 林太郎

私はこれまで、愛知県内の市役所職員として11年間勤務し、市役所職員中の2年間を愛知県一宮建設事務所に派遣された経験が転職するきっかけとなり、現在、愛知県職員5年目を迎えます。

私は大学で化学を専攻しており、市役所ではいわゆる一般事務職として採用されましたが、土木職員の手が足りていないとの事から土木の担当となり、自治体主導の土地区画整理事業、都市計画に係る整備事業、下水道整備事業の工事監督業務等を経験し、愛知県へ派遣され、河川の調節池整備事業の工事に携わり、県職員となりました。県では、海部建設事務所で道路維持業務、河川整備業務を行い、現在、

災害派遣に従事する



伊勢市 都市整備部 維持課

中西 佑太

私は高校を卒業し、土木技術職として伊勢市役所に入庁しました。早いもので今年で10年目を迎えます。入庁した当時はまったくと言っていいほど土木に関する技術や知識はありませんでしたが、上司や先輩に教わりながら日々仕事をしていくことで成長することができました。そんな私が令和6年1月1日に発生した能登半島地震の災害派遣を振り返り、学んだこと、感じたことについてお話をさせていただきます。

私は令和6年4月1日から9月30日までの半年間、石川県の穴水町に災害派遣に行き、道路災害に関する災害査定などを担当していました。地震発生から3か月を過ぎた頃でしたが町全体に被災箇所が多く、道路の陥没、土砂崩れ、隆起した漁港、木造住宅はほとんどが倒壊していました。そんな状況であったため、被災箇所へ測量へ向かうにも車が通れず徒歩で

3年目社会人の奮闘



三井共同建設コンサルタント株式会社 河川計画事業部

伊藤 なぎさ

三井共同建設コンサルタントに入社し、今年で3年目となりました。学生時代は河川工学に関する研究室に所属しており、現在も河川分野に携わっています。入社後は主に気候変動の影響を考慮した流出解析、水文・水理解析を行ってきました。

約2年間で多くのことを学ぶ中で、特に探究心を持つことの重要性を実感しました。河川の専門的な知識や整備状況など、探究心を持って様々な知識を増やすことで、発注者の疑問や要望に柔軟に対応できるようになると考えています。

業務の中で発注者からの質問に対して、知識不足で上手く答えることができず、先輩に頼りきってしまったことが何度かありました。この経験から、分からないことはその都度聞いた、解析や計算を行うだけではなく、なぜその結果が得られる

尾張建設事務所において、主に砂防事業の工事担当を行っております。

簡単に経歴を書かせていただきましたが、大学まで土木の勉強はしておらず、社会人1年目は当然土木に関する知識などはまるでなかったことから、過去の資料を探して見よう見まねで工事を発注し、訳も分からず監督業務するようなことが続きました。そのような状況が変わったのが、初めて直属の後輩を持った時のことでした。彼は、建設コンサルから転職してきており、自分の任された仕事に何事にも根拠をもって取り組み、知識の拡充にも余念がなく、土木関係の資格試験も受験する話をしていました。

彼には初め、「市役所の仕事は教えられるけど、技術的な仕事は教わる立場なのでよろしく。」と冗談交じりに話していましたが、後輩に仕事への意識の差を見せつけられたことにショックを受け土木の勉強を始め、その後輩と同時期に土木施工管理の資格を取得することができました。

今でも自分は技術的な面でいっぱしの土木技術職員だ！などと胸を張って言えるようになったのか怪しい部分もありますが、この経験は今の自分の仕事への向き合い方を形作ることとなり、今後も土木職員であるという意識を持って仕事をしていきたいと考えています。

現地へ向かったり、時には迂回しながら現場へ向かったりしていました。また、地元の建設業者、測量設計業者も手が回らないため、自分たちで簡易的な道路補修を行ったりしていました。一日中現場で作業する日も多く、事務所に戻るのが業務時間外になることも多々あり、弱音を吐きそうになる時もありました。しかし、大変なのは他の支援者も同じであり、被災している職員の皆さんはさらに大変な状況にあるにもかかわらず、弱音を吐くことなく、いつも優しく明るく接してくださり、応援もしていただき、頑張る力をもらいました。

災害査定では効率化を図るため、図面等の簡素化、机上査定の上限額の引き上げ、複数の被災箇所を結合し、1つの箇所としてまとめて申請、査定することが可能でした。それにより、職員不足が懸念される市町村は業務の負担が減り、より早く

復旧工事に着手することができたと思います。

また、災害派遣に行った当初は半年間生活できるのか、自分は復興支援者として役に立てるのか不安でいっぱいでした。ですが被災地の方々は温かく私を迎えてくださり、他県から派遣された職員とも横の繋がりができ、前向きな姿勢で業務に従事することができました。

南海トラフ地震もいつ発生してもおかしくない切迫した状況にあります。大規模災害はあってほしくないですが、もし災害があったときには今回の災害派遣で得た知識と経験を活かし、人々の安全な暮らしを支えられる大切な仕事であることを誇りに思い、頑張っていきたいと思います。

のかを考えたり、業務に対しての理解を深めようと積極的に取り組むようになりました。1つの業務で学んだことが他の業務でつながることも多く、理解できることも段々と増えてきています。

また、探究心を持って知識を増やすことに加え、それらを適切に伝えるための説明力も不可欠であると考えます。

業務の中で河川の整備効果を示した資料を作成する際に、相手に伝わりやすいような図の作成や定量的に示すといった工夫が必要とアドバイスを受けました。資料の作成だけではなく、打合せの際には相手の理解に応じて説明をしている先輩の姿を見てきています。今までは自分本位な説明になってしまいがちでしたが、相手視点での説明をするように心掛けるよう

になりました。

他にも日々様々なことを学んでおり、やりがいを感じることも多いです。コンサルタント業をしていて、特に住民アンケートによる意見聴取や現地調査などで河川に行く際にその地域のまちづくりに携わっているということを実感しています。住民の方々にとってより良いまちづくりに貢献できるよう今後も精一杯取り組んでまいります。

3年目になり後輩もでき、今まで支えてもらってきた分、できることから少しずつサポートしていき日頃熱心に教えてくださる方々への感謝を忘れず、今後も努めてまいります。

最適解を探る



静岡コンサルタント株式会社 技術1部 設計1課

菊地 翔介

私が建設コンサルタントとして業務に携わるようになり、4年目を迎えました。現在は道路設計やほ場整備設計に従事しています。大学では構造地質学を専攻し、岩石の構造解析から地中環境を読み解く研究を行っていました。観察データをもとに複数の可能性を比較し、最も合理的な解釈を導くというプロセスは、唯一の正解が存在しないという点で、現在の設計業務にも通じるものがあると感じています。

ほ場整備設計では、区画整理や排水計画を通じて、生産性の向上と維持管理のしやすさ、さらには経済性の確保を同時に満たすことが求められます。地形条件や土質、担い手農家の意向などは地区ごとに異なり、一つとして同じ条件はありません。そのため、設計においてはさまざまな制約条件を整理しながら、現実的かつ合理的な形を見出していく必要があります。

こうした業務に携わる中で、以前の自分は「分かったつも

技術者として 「これまで」と「これから」



株式会社復建技術コンサルタント
構造技術部 名古屋技術1課 課長補佐

夏堀 尚大

他の方々よりも上の年代になりますが、何かの機会と思い、執筆依頼を受けました。私は入社以来13年間、橋梁設計の技術者として業務に携わってきました。仙台北社での採用後、東北地方を中心に数多くの橋梁新設設計に携わってきました。

東北から名古屋に赴任して5年が経ちました。慣れ親しんだ地を離れ、中部圏という新たなフィールドに身を置くこととなりましたが、この5年間はこれまでの経験を活かしつつ、地域特有の条件や発注者のニーズを深く理解することに注力し、技術者としての適応力を磨いてきました。

名古屋支店に配属されてからは、橋梁の新設設計に加え、

入社からこれまでを 振り返って



株式会社興栄コンサルタント 技術第三部

中野 颯太

時が経つのは早いもので、入社してから丸8年が経ちました。今回このような機会をいただきましたので、入社してからこれまでを振り返ってみようと思います。

2018年4月に入社してすぐは、河川砂防の業務に携わりました。最初は、入社前からある程度進んでいた業務の図面や数量計算書のチェックから始まりました。初めて見るものばかりで、何が何を表しているのかを把握するのに苦労したことを覚えています。

ある程度仕事にも慣れた頃、平成30年7月豪雨災害が発生しました。岐阜県内でも多くの河川や道路が被災し、災害対応のため一気に忙しくなりました。特に飛騨方面の被害が大きく、高山支店の負担も増していたため、私は約1か月間、高山

り」で設計に向き合っていたのではないかと感じる場面がありました。例えば、暗渠排水の計画において、地下水位を低下させ排水不良を改善するという一次的な目的は理解していましたが、それによって農地の汎用化を図り、営農の選択肢を広げるといった中長期的な役割まで十分に意識できていませんでした。設計の目的をどこまで捉えられているかによって、検討の深さが大きく変わることを実感しました。

印象に残っている業務の一つに、わさび田の造成設計があります。伝統的な置石式の構造をコンクリートで再現するにあたり、石積みが担っていた通水性や通気性をどのように確保するかが課題となりました。この課題に対しては、暗渠排水管の配置を工夫することで、水と空気の流れを確保する方法を検討しました。明確な設計基準がない中で、経済性や維持管理性、耕作者の意見を踏まえながら方向性を定めていくプロセス

は容易ではありませんでしたが、条件を一つずつ整理し、形にしていく過程に設計の面白さを感じました。

これらの経験を通じて、設計とは単に条件を満たす解を求めるのではなく、目的や背景を踏まえたうえで最適解を探る営みであると認識しています。同時に、自身の理解がまだ十分でないことを自覚する機会も増えてきました。できることが増える一方で、考慮すべき視点の多さにも気づかされています。

今後も、目の前の条件だけでなく、その先にある目的を意識しながら、現場に即した実効性の高い設計に取り組んでいきたいと考えています。そして、お客様に「任せてよかった」と思っていただき、利用者にも価値を実感していただける技術者を目指し、研鑽を重ねていきたいと思っています。

橋梁補修および耐震補強設計へと業務の幅を広げています。現在、インフラの老朽化対策は社会的な最重要課題の一つです。新設設計で培った技術力をベースにしながら、「既存の橋梁をいかに安全に、かつ効率的に守り抜くか」という視点を持って業務に取り組んでいます。正直なところ、補修・耐震補強の分野については新設設計に比べるとまだ経験が浅いため、日々勉強のスタンスで業務にあたっています。

私の今後の目標は、「中部圏内の発注者の皆様に復建技術コンサルタントの社名を覚えていただき、信頼される技術者になること」です。中部地区ではまだまだ新参者の立ち位置であり、同じ「復建」の名称を持つ他社と間違えられることもあります。一日でも早く皆様の仲間に入れるよう、頑張っていきたい

と思います。

建設コンサルタント業界も、今や残業規制やDX、業務効率化が進み、私が入社した当時とは時代が変わってだいぶ働きやすくなったと感じます。一方で、私が若手だった頃は遅くまで業務をしながら勉強する時間がありましたが、今の若手はその時間が取りづらく、日々の業務をこなすことで精一杯のようにも見受けられます。「私の若い時のように」とはいきませんが、部下に教える際にはできる限り分かりやすく、新しいツールや考え方を取り入れながら指導していきたいと考えています。そのためにも自分自身をレベルアップさせ、あらゆることを教えられるよう、今後も技術研鑽を積み重ねていきたいと思っています。

支店へ応援として出張することになりました。当時はまだ入社して4か月ほどで、戦力になれたかどうかは分かりませんが、ベテラン技術者の方々から直接みっちりのご指導いただき、とても貴重な経験をすることができました。

2年目からは、庁舎の造成事業やトンネルの漏水調査など、弊社では前例のない業務や、レーザ測量を活用した林道設計など、新技術を取り入れた実験的な業務に携わりました。特にレーザ測量については、業務を進める中でその概要や3DCADの操作を習得することができ、現在でも多くの業務で役立っています。

実はこの時期、結婚を機に会社を辞めて神奈川へ引っ越すか悩んでいました。しかし、新型コロナウイルス感染症の拡大

により在宅勤務制度が整備され、柔軟な働き方の基盤が整ったことから、経営管理部常務に「神奈川で在宅勤務をしてはどうか」と提案していただきました。これまでの在宅勤務とは異なり、フルリモート勤務となるため不安も大きかったですが、周囲の助けもあり、現在も何とか続けることができています。会社としても、私の事例がきっかけとなり、新たに入社する人の働き方の選択肢が増えたと聞いています。

現在は、今年3歳になる息子の育児と、砂防堰堤設計や砂防施設点検を中心とした業務との両立を、周囲の理解と協力を得ながら図っています。息子が寝た後は技術士試験の勉強にも励んでおり、フルリモート環境ではありますが、これからも技術力の向上に努めてまいります。

中央復建コンサルタンツ株式会社

中部支社 中部支社長 尾川 憲市

1. 我が社のプロフィール

昭和21年6月戦後復興を旗印に復興建設協会を創設、同年8月近畿支部として営業を開始いたしました。昭和34年株式会社近畿復建事務所を設立、昭和41年7月、現社名である中央復建コンサルタンツ株式会社へ改称し、本年度で創立80周年を迎える事ができました。これもひとえに皆様のご支援の賜物であり心より御礼申し上げます。

当社は鉄道・道路・港湾等の計画・設計・維持管理、国土・交通計画や地域づくり、地盤等の調査・解析、環境影響評価等の各分野でトップレベルの技術者を擁する総合コンサルタントとして様々なプロジェクトに参画しており確かな技術力で社会基盤整備に貢献しております。

【主な事業地域】

本社（大阪）、東京本社、中部支社、東北支社、神戸支社、四国支社、中国支社、九州支社、全国22の営業所



写真-1 CFK 大阪本社 社屋

2. 我が社のイチオシ！

2024年よりオフィス空間のリニューアルに着手し、特に大阪本社1階ロビーでは、社員同士のコミュニケーションを促進する空間整備を実現しました。ロビーで開催される社員交流会では、新入社員からベテラン社員まで幅広い世代が交流する場として定着しています。

また、社内には多様な部活動・サークルが存在し「復建会」という活動があります。活動を通じて社員の心身のリフレッシュと相互の親睦を図っています。中でも野球部は近畿支部野球大会において優勝を目標に世代を超えて結束し2023～2025年にかけて史上初となる3連覇を達成しました。こうした取り組みにより、社是である「誠実」「明朗」「団結」のもと社員同士のつながりを基盤とした企業力向上につなげています。



写真-2 大阪本社 1階ロビーでの交流会

3. 最近のトピックス

名古屋市の新たな路面公共交通システム導入に際し、計画策定の初期段階から参画。社会実験や関係機関との連携を通じて、事業化に向けた取り組みを進めました。

そして今年、令和8年2月に名古屋駅～栄間を回遊するSRTが運行開始し、都心の回遊性向上と新たな都市価値の創出に大きく貢献しました。また、SRT回遊時の車内サイネージで名古屋の魅力を発信する映像コンテンツに協賛。交通インフラの整備にとどまらず、都市の魅力を発信する事にも関わることで、地域への貢献とともに当社の企業価値向上にもつなげております。



写真-3 名古屋市内を回遊する SRT

4. 執筆者からひと言

創立80周年を迎える節目として今期は沖縄への社員旅行が予定されています。どのような旅になるのか今から楽しみです。創立70周年では石川県の加賀屋に、全社員が大広間で一堂に会した会食は圧巻でした。

100周年には、どこでどんな時間を皆が共有することになるのか…。今から思いを巡らせています。

中部復建株式会社

担当部長 永津 めぐみ

1. 我が社のプロフィール

中部復建株式会社は、終戦直後の1946年（昭和21年）、国土再生を期して設立された「社団法人復興建設技術協会中部支部」をその起源に持ちます。以来、80年にわたり名古屋を拠点とし、道路、橋梁、鉄道、河川・砂防、上下水道、地質調査、測量、補償の多岐にわたる分野で、インフラ整備の上流から地域の発展を支えてまいりました。「想像から創造へ」という理念を掲げ、先人たちが築いた歴史と文化を尊重しながら、技術の力で次世代への架け橋となること。それが、この地に根差す私たちのゆるぎない使命です。

【主な拠点】

本社（名古屋）、岐阜
支店（岐阜市）、一宮・
豊田・東三河・東濃・
三重・浜松（各営業所）



写真-1 本社（名古屋市中区）

2. 我が社のイチオシ！

我が社の最大の強みは、戦後復興の黎明期から80年にわたり積み上げてきた実績と、地域からの厚い信頼です。名古屋市の都市交通の要である市営地下鉄の構造設計をはじめ、都市の利便性を進化させた数々の名古屋の地下街設計など、名古屋の発展を象徴するプロジェクトにも草創期から携わってきました。「迅速な対応と細やかな心遣い」をモットーに、中部地域に根差した高度な技術提案を行えるのは、長年この地の社会環境を見つめてきた「老舗」ならではの知見があるからです。地域密着型企業としての迅速な意思決定を活かし、これからも質の高い成果品を提供し続けます。

近年は「人的資本の充実」を掲げ、若手からベテランまで技術を磨き、高いエンゲージメントを持って挑戦し続ける環境づくりに、社を挙げて取り組んでいます。

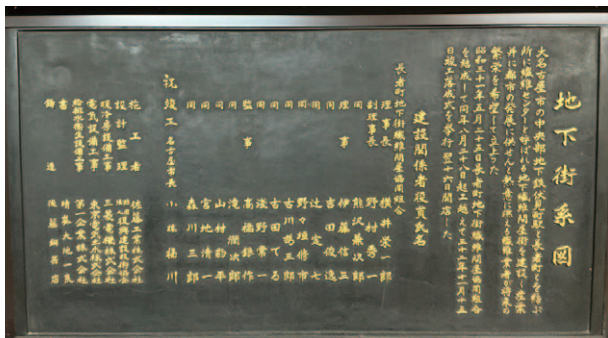


写真-2 伏見地下街にある銘板（東端付近）
昭和31年 復興建設技術協会時代
（縦77cm×横150cm 左から6番目設計監理が当社）



写真-3 熱田記念橋

3. 最近のトピックス

2026年（令和8年）4月27日（月）、ANAクラウンプラザホテルグランコート名古屋にて、80周年を記念した式典および祝賀会を挙行了いたしました。

はじめに、「人的資本の充実で更なる組織の成長を目指す」と題した講演が行われ、組織としての成長を再確認しました。続く式典では、永年勤続表彰や優れた技術成果を上げた社員の表彰が行われ、全員でその功績を称えました。祝賀会では、「マグロの解体ショー」が披露され、職人の技と活気に会場は大いに盛り上がりしました。総勢70名を超える参加者が、これまでの歩みを振り返り、次なる時代への絆を深める貴重な一日となりました。



写真-4 マグロ解体ショー

4. 執筆者からひと言

これまで80年、諸先輩方が積み上げてきた地域の安心・安全への貢献を振り返ると、改めて中部地域を支える「老舗」としての重責と誇りを感じます。私たちは、この伝統という土壌を大切にしながら、現状に甘んじることなく「新たな企業価値の創造」に挑み続けます。

100周年という未来を見据え、社員一丸となってこの地域の社会資本整備および安心・安全の確保に全力を尽くし、地域に信頼され、愛され続ける企業を目指してまいります。



会社HPはこちら

総務部会 運営委員会

運営委員長 伴 宏之

運営委員会として、総会、協議会を始めとし各委員会の企画、立案、運営が円滑に進められるよう活動を行っています。

以下に昨年度下半期の主な活動報告と今年度上半期の主な活動予定についてご報告します。

令和7年度下半期の主な活動報告

■カルチャーセミナー

- 開 催：令和7年11月8日(土)
- 場 所：中ビルカンファレンスルーム
- 講 師：京都大学大学院地球環境学堂

山村 亜希 教授

- 内 容：名古屋城下町の都市プラン



カルチャーセミナーの様子

■コンプライアンス講習会

- 開 催：令和7年11月10日(月)
- 場 所：名古屋ガーデンパレス
- 講 師：弁護士 熊田 均 氏
中部地方整備局適正業務管理官 兼定 弘明 氏
- 内 容：(一社)全国上下水道コンサルタント協会中部支部、(一社)中部地質調査業協会、(一社)日本補償コンサルタント協会中部支部、(一社)愛知県測量設計業協会の5団体共催で講習会を実施



コンプライアンス講習会の様子

■賀詞交歓会

- 開 催：令和8年1月19日(月)
- 場 所：名鉄グランドホテル
- 内 容：中部地方整備局、自治体、学校関係等の来賓を迎え、賀詞交換会を開催



賀詞交換会 鏡割りの様子

令和8年度上半期の主な活動予定

令和8年度下半期は以下の活動を予定しております。

■コンプライアンス講習会

- 日 時：令和8年11月9日(月)
- 場 所：名古屋ガーデンパレス
- 内 容：(一社)全国上下水道コンサルタント協会中部支部、(一社)中部地質調査業協会、(一社)日本補償コンサルタント協会中部支部、(一社)愛知県測量設計業協会の5団体共催で講習会を実施予定

■賀詞交歓会

- 開 催：令和9年1月18日(月)
- 場 所：アイリス愛知
- 内 容：中部地方整備局、自治体、学校関係等の来賓を迎え、賀詞交換会を予定

総務部会 災害対策委員会

災害対策委員長 木田 末雄

災害対策委員会では、災害時対応訓練に関する事項を
 分掌しており、行政機関等10団体と締結している災害時
 支援協定内容の適宜見直し及び支援協定先との協議並び
 に災害時に備えた情報伝達訓練の企画・運営等の活動を
 実施しています。

以下に昨年度下半期の主な活動と今年度上半期の主な
 活動予定についてご報告します。

令和7年度下半期の主な活動報告

■中部道路啓開計画協議会(3回)

①静岡県WG

- 実施日: 令和7年10月20日(月)
- 会 場: Web会議
- 参加者: 委員長・担当委員
静岡県協議会構成会員
- 内 容: 静岡県における道路啓開計画の策定

②岐阜県WG

- 実施日: 令和7年10月20日(月)
- 会 場: Web会議
- 参加者: 委員長・担当委員
岐阜県協議会構成会員
- 内 容: 岐阜県における道路啓開計画の策定

③第2回中部道路啓開計画協議会

- 実施日: 令和8年1月19日(月)
- 会 場: 書面開催(メール発信)
- 内 容: 道路啓開計画(素案)の中間報告

■名古屋市との緊急車両通行許可の対応会議

- 実施日: 令和7年11月10日(月)
- 会 場: 緑政土木局 橋梁施設課
- 参加者: 委員長・副委員長・担当委員2名
- 内 容: 緊急通行車両事前申請の更新について

■名古屋高速道路公社との災害応急対策支援協定に 関する意見交換会

- 実施日: 令和7年10月1日(水)
- 会 場: 名古屋黒川ビル大会議室
- 参加者: 名古屋高速道路公社、建コン協中部支部・
支援協力社班長、日本橋建協
- 内 容: 災害時の名古屋高速の役割及び対策活動等

■名古屋港BCP協議会(2回)

- ①実施日: 令和7年10月15日(水)
- 会 場: 名古屋港湾会館 第3会議室
- 参加者: 委員長・担当委員
名古屋港BCP協議会構成員

- 内 容: 道路計画計画に係る確認訓練
訓練内容についての確認・意見

②実施日: 令和8年2月13日(金)

- 会 場: 名古屋港湾会館 第2会議室
- 参加者: 担当委員1名
名古屋港BCP協議会構成員

- 内 容: 名古屋港BCP改訂内容等

■「令和7年度災害時会員連絡名簿」作成のため 支部会員へアンケート調査依頼

- 実施日: 令和8年3月4日(水)

■災害対策委員会の開催

- 実施日: 令和7年12月2日(火)、
令和8年2月25日(水)

■その他

- ・中部地方整備局との災害協定の見直し・締結
- ・中部地方整備局等との災害時の情報一元意見交換
- ・災害時応援名簿の支援協力委員の追加対応
- ・名古屋高速道路公社緊急通行車両登録の対応

令和8年度上半期の主な活動予定

■中部支部災害時会員連絡名簿の作成

支部会員からのアンケート調査結果を基に支援内容の追
 加、修正、確認を行い、行政機関10団体の「令和8年度災害
 時会員連絡名簿」を作成し、協定締結先へ配付を予定

■災害時対応演習

- 実施日: 令和8年9月1日(火)
- 災害対策現地本部: 中部支部

■名古屋市との災害時対応訓練に係る事前説明会

- 実施日: 令和8年8月中旬予定

■名古屋市との災害時対応訓練

- 実施日: 令和8年8月下旬予定

■名古屋高速道路公社との災害応急対策支援協定に 関する意見交換会

- 実施日: 令和8年10月中旬予定

■岐阜県との災害応援協定連絡会議

- 実施日: 令和8年5月26日(火)

■静岡県との出動要請・応援訓練

- 実施日: 令和8年8月中旬～9月初旬

■災害対応・BCP検討WP

- 建コン協本部と支部との災害時対応演習等の協議

■名古屋港BCP協議会

- 実施日: 令和8年7月上旬
(令和9年2月中旬まで4回開催予定)

■南海トラフ地震対策中部圏戦略会議

- 実施日: 令和8年6月2日(火)

■上記に係る委員会の開催を予定

- 実施予定日: 5月27日、7月1日、8月中旬、9月1日

対外活動委員会

対外活動委員長 中村 治

対外活動委員会では、発注者との意見交換会を中心に、関係行政機関の窓口として活動しております。昨年度に引き続き、中部地方整備局をはじめ中部4県との意見交換会を開催しております。今年度も意見交換会を通して、協会会員の声を発注者に伝え、課題解決に向けた取組みを進めてまいります。

令和7年度下半期の主な活動報告

■中部地方整備局との意見交換会

- 開催日：令和7年12月9日(火) 16:10～18:00
- 場 所：アイリス愛知 2F コスモ4・5
- 出席者：中部地方整備局 濱田企画部長はじめ12名
中部支部 牧村支部長はじめ29名
- 議 題：①履行期限(納期)の平準化と標準履行期間の確保への取組み強化
②ウィークリースタンスの徹底
③災害時業務支援における環境整備
④地域コンサルタントの活用促進
⑤BIM/CIM業務の推進に向けた環境整備
⑥中部地方整備局直轄事業の安定的な事業量の確保
⑦中部圏インフラ整備構想について



中部地方整備局との意見交換会

■愛知県建設局との意見交換会

- 開催日：令和7年12月25日(木) 15:00～17:00
- 場 所：桜華会館 富士桜 別館2階
- 出席者：愛知県建設局 夫馬建設企画課長はじめ8名
中部支部 牧村支部長はじめ13名
- 議 題：①担い手確保・育成のための環境整備
②品質の確保・向上
③入札・契約方式等の改善
④その他、フリーディスカッション

■岐阜県県土整備部との意見交換会

- 開催日：令和7年11月18日(火) 10:00～11:00
- 場 所：岐阜県議会棟第1会議室

- 出席者：岐阜県 古川県技術検査課長はじめ7名
中部支部 三矢副支部長はじめ10名
- 議 題：①担い手確保・育成のための環境整備
②DX推進の環境整備
③その他、フリーディスカッション

■静岡県交通基盤部との意見交換会

- 開催日：令和7年12月22日(月) 14:00～16:00
- 場 所：静岡県庁 別館7階 第二会議室B
- 出席者：静岡県 増田技術調査課長はじめ9名
中部支部 庄村副支部長はじめ12名
- 議 題：①担い手確保・育成のための環境整備
②品質の確保・向上
③その他、フリーディスカッション

■三重県県土整備部との意見交換会

- 開催日：令和7年12月23日(火) 14:00～15:25
- 場 所：三重県庁 5階コントロールルーム
- 出席者：三重県 水谷県土整備部副部長はじめ9名
中部支部 三矢副支部長はじめ12名
- 議 題：①担い手確保・育成/就業環境の改善/品質の確保・向上について
②災害・リスク管理への取組、公共施設の維持管理方針、BIM/CIM業務への取組
③その他(閲覧資料の電子化、手持ち案件数に対する評価基準の見直し等)

■建設技術フェア「学生交流ひろば」への出展

令和7年12月4日、5日に開催された「建設技術フェア2025in中部」の「学生交流ひろば」に建コン中部支部ブースを出展しました。対外活動委員会で準備・運営を行い、建設コンサルタントの技術者(技術部会、若手の会、女性の会)が学生の個別相談に応じ、業界の役割や目指す姿など、建設コンサルタントに関する情報を伝えました。なお、当ブースへの学生来場者は156名でした。



建コン中部支部ブースの様子

令和8年度上半期の主な活動予定

令和8年度上半期は以下の活動を予定しております。

■令和8年度「要望と提案」中部地方ブロック意見交換会(10/19)

■「あいち建設みらいサロン」の窓口 など

今後も発注機関との連絡・調整を中心とした活動により、協会活動が円滑に進行できるよう努力してまいりますので、皆様のご協力をお願い申し上げます。

対外活動部会 編集委員会

編集委員長 伊藤 博之

編集委員会の活動は、広報誌「図夢 in 中部」を年2回（1月、8月）編集・刊行することにより、中部支部における諸活動の状況及び新規事業等を主に、建設コンサルタントに関する各種の情報を会員各社及び官庁、大学の方々に提供しています。

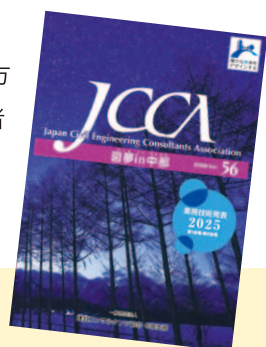
令和7年度下半期の主な活動報告

■「図夢 in 中部 Vol.56号」の発刊

2026年1月発刊に向けて56号の編集を行いました。

内容といたしましては、

- 業務技術発表2025年度の第一会場および第二会場で行われました発表会で、最優秀賞及び優秀賞の計6篇を掲載いたしました。
- 巻頭言は、庄村副支部長に執筆して頂きました。
- 投稿は、愛知県・浜松市の職員の方に執筆いただき、会員の投稿は4名頂きました。
- 協会活動紹介は、部会報告・各委員会の2025年度上半期の活動報告と2025年度下半期の活動予定を記載しております。
- 事務局だよりは、「中部地方整備局災害対策関係功労者表彰の受賞」、「令和7年8月以降の中部支部の主な活動」について記載しております。



図夢 in 中部 Vol.56 号

令和8年度上半期の主な活動予定

■「図夢 in 中部 Vol.57号」の発刊

2026年8月発刊に向けて57号の編集を行っております。

- 6月23日に編集委員会を行い、各項目につきまして確認を行っております。

編集委員会では、中部支部の活動状況や情報を「図夢 in 中部」とHPを通じて紹介しています。

(<https://www.ccainet.org>)

今後とも会員皆様からのご支援を頂き、活動状況をわかりやすく、親しみやすい内容で提供していきたいと考えています。

対外活動部会 事業広報委員会

事業広報委員長 木村 孝延

事業広報委員会では、建設コンサルタントが「安心・安全・快適な暮らし」を実現するためにどのような役割を担い、どのように貢献しているかを広く一般の方々にご理解いただけるように、また学生の方々に対して業界の知名度を上げ、次代を担う技術者を確保するために、社会貢献活動を通じて業界活動をPRしていくことを目的として、これらの活動の企画・運営を行っています。

以下に令和7年度下半期の主な活動と令和8年度上半期の主な活動予定についてご報告します。

令和7年度下半期の主な活動報告

■建設コンサルタントフェア2025の開催

毎年開催している金山総合駅コンコースが今年度は改修工事で使用できないため、初めての会場で建設コンサルタントフェアを開催しました。

- 開催日時：令和7年11月8日（土）
- 会場：中日ビル地下1階イベント広場
- 展示内容：
 - ・建設コンサルタントの役割パネル展示
 - ・中部圏インフラ整備構想の説明
 - ・フォトコンテストの開催
 - ・模型実演による液状化のメカニズムの解説
 - ・アンケート回収：145枚
(R6:211枚 R5:321枚)
 - ・フォトコンテスト投票数：178票
(R6:253票 R5:377票)



呼び込みスペースの制約などがあり例年に比べ来場者数は減少となりました。しかし、来場いただいた方々には興味を持って説明を聞いて頂けた印象を受けました。

■業界説明会の実施

土木系の学部を展開している中部の大学・高専に対し、就職先の選択肢としてコンサルタント業界を紹介するため、各校に出向き業界の役割について説明会を実施しています。

令和8年度上半期の主な活動予定

■打ち水大作戦への参加

- 開催日：令和8年8月22日(土) 予定

名古屋市環境局主催の打ち水大作戦に今年度も参加する予定です。

■産官三機関合同インターンシップへの参加

- 開催期間：令和8年9月15日～17日

国交省主催の合同インターンシップのサポートメンバーとして今年も参加します。

■業界広報誌の配布

会員名簿や図夢in中部など協会会報誌を発注先・学校関係へ配布いたします。

■業界説明会の実施

引き続き各校に対し説明会の開催可否について問い合わせを行います。

次代の担い手を確保するための重要な機会だと認識し、継続的な活動を続けます。

各校でインターンシップの利用が活発となり、インターンシップへ参加した業界への就職率が高くなっています。

夏休み等に学生たちがインターンシップへ参加する選択肢となるよう、業界説明会の開催時期についても学校側と調整していきます。

■建設コンサルタントフェア2026の開催

今年度も建コンフェア2026を開催いたします。

今回は協会単独での開催ではなく、愛知県が主催する「土木のしごと魅力発信イベント(仮)」に各種建設関連団体と合同で出展することになりました。

- 開催日時：令和8年11月21日(土)
- 会場：愛・地球博記念公園 大芝生広場

完全屋外でのイベントとなるため、これまでの展示内容では対応できない事が予測されるため、若手の会・女性の会にも協力頂き、展示内容を検討していきます。

情報部会 情報委員会

情報委員長 鹿田 竜一

情報委員会は、支部会員企業および広く一般向けに、支部活動状況の発信や支部で運用する情報インフラの整備など、情報通信分野に関して活動しています。

令和7年度下半期の主な活動報告

■ホームページ運用管理

定期的な情報発信に加え、図夢in中部および支部が開催する講習会などの資料を掲載しました。

■フォトコンテストの実施

『私のお気に入りの風景(土木施設)』をテーマとしたフォトコンテストを開催して、会員企業より33作品の応募がありました。一次選考にて8作品を選出し、建設コンサルタントフェア2025in中部(11/8開催)でパネル展示するとともに、来場者の審査により最優秀作1点、優秀作3点を選定しました。受賞作品は支部ホームページに掲載しています。



建設コンサルタントフェアでの一般審査の様子

■ICTアンケートの実施

支部会員企業を対象に、ICTを活用した労働生産性向上に関するアンケートを実施し、分析した結果を支部会員企業に公開しました。

令和8年度上半期の主な活動予定

■ホームページの運用管理

定期的な情報発信に加え、図夢in中部および支部が開催する講習会などの資料を掲載します。

■フォトコンテストの実施

『私のお気に入りの風景(土木施設)』をテーマとして会員企業を対象にフォトコンテストを実施します。

■ICTアンケートの実施

会員各社に参考となる情報を提供することを目的とした、ICTに関するアンケートを実施します。

■その他

当委員会への要望などございましたら、メールでお気軽にご相談ください。

(情報委員会メールアドレス:johou@ccainet.org)

情報部会 ICT委員会

ICT 委員長 望月 純

ICT委員会では、ICTに関する情報収集と共有、講習会の開催、関係機関との連絡調整等を通じ、支部会員へのICT普及支援を目的とした活動を行なっています。

令和7年度下半期の主な活動報告

■「ICTセミナー2025 in 中部」の開催

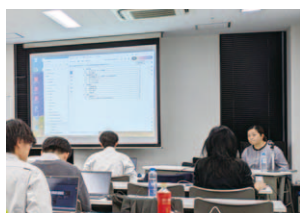
本部ICT普及専門委員会共催により、10/14(火)に参集による講習会を開催いたしました。BIM/CIM関連の最新情報や基準改定などの説明、また、ベンダー様の協力によりBIM/CIM関連の最新ソフトの紹介を行いました。

■「CIMハンズオン講習会2025」の開催

本部ICT普及専門委員会共催により、CIMハンズオン講習会を、11/4(火)、11/5(水)の2日間にわたって開催しました。講習会では、BIM/CIM対応ソフト(Autodesk Civil3D他)を用いた土工・構造物の3Dモデル作成などを体験していただきました。



講習会状況(11/4)



講習会状況(11/5)

■発注者との意見交換会

BIM/CIMの普及に関する発注者との意見交換会に参加し、国土交通省中部地方整備局や各県の担当者とBIM/CIM導入状況などについて意見を交わしました。また、意見交換会資料として、BIM/CIMに関する会員アンケートを実施し、とりまとめを行いました。

■i-Construction中部ブロック推進本部への参加

国土交通省中部地方整備局からのご依頼により3/17(火)に開催された実務担当者会議に参加しました。

令和8年度上半期の主な活動予定

■BIM/CIM・DXに関する講習会の開催

支部会員へのBIM/CIMやDX関連情報の提供、および技術力の向上を目的とした講習会を開催いたします。

3D-CADのハンズオン講習会では、初級編に加え、皆様のご要望を踏まえ応用編を新たに開催予定です。また、昨年度と同様に、DX関連技術の体験型講習会や、本部ICT普及専門委員会共催によるハンズオンセミナー、ICTセミナーなどの開催を予定しております。

■その他

当委員会への要望等メールでお気軽にご相談下さい。

(ICT委員会メールアドレス: ictc@ccainet.org)

技術部会 道路委員会

道路委員長 小川 利治

道路委員会では、講習会・見学会・講師派遣等の技術交流を通じて、道路関連事業に従事する技術者の技術力の向上を図るとともに、建設コンサルタントフェア等を通じて建設コンサルタントの役割が広く理解されていくことを目的として活動しています。

なお、令和8年度の道路検討グループへは、34社219名(昨年度36社247名)のご登録をいただきました。

以下に令和7年度下半期の主な活動と令和8年度上半期の主な活動予定についてご報告します。

令和7年度下半期の主な活動報告

■定例委員会の開催

下半期は9月～12月に対面+Webで4回開催し、役員会報告、業務技術発表会報告、対外活動報告、講習会準備、次年度道路検討グループ総会準備について議論しました。

■第1回技術講習会

- 開催日: 令和7年9月3日(水) 14:30～16:30
- 場 所: TeamsによるWeb配信
- 参加者: 40社227名
- 内 容: 「良好な道路環境の創造にむけて」
- 講 師: 国土交通省 国土技術政策総合研究所
道路交通研究部

道路環境研究室 主任研究官 大河内 恵子 氏
主任研究官 長濱 庸介 氏
主任研究官 根津 佳樹 氏



講師による講演の様子

■中部インフラ構想についての意見交換会

- 開催日: 令和7年12月10日(水) 15:00～17:00
- 場 所: アレックスビル1階会議室
- 参加者: 広報委員会、道路委員会、構造土質委員会、
若手の会(委員のみ)
- 内 容: 整備構想の内容理解、今後の活動など
- 講 師: 中部インフラ整備構想 広報委員

■現場見学会

例年、中部地整管内での現場見学会を実施していますが、令和7年度は諸事情により開催中止となりました。

■講師派遣

1) 愛知県建設技術研修・土木施工技術講座

- 開催日: 令和7年9月10日(水)
- 内 容: 盛土・切土設計と法面安定

2) 三重県建設技術研修

- 開催日: 令和7年8月19日(火)・21日(木)
- 内 容: 道路構造令の解説と演習、道路排水計画

■対外活動

1) 建設コンサルタントフェア2025in中部

- 開催日: 令和7年11月8日(土) 10:00～16:00
- 場 所: 中日ビル地下イベント広場
- 内 容: パネル説明

2) 建設技術フェア2025in中部

- 開催日: 令和7年12月4日(木)・5日(金)
- 場 所: ポートメッセなごや
- 内 容: 建コンプース学生広場

令和8年度上半期の主な活動予定

■委員会活動

委員会活動は、4月～12月に毎月1回の活動で計9回を予定しております。なお、委員会は集合形式を基本とし、適宜Web会議を併用して開催します(4月、5月は対面及びWeb会議形式で実施)。

■技術講習会

開催は、9月頃と11月頃の2回を予定しています。講習内容は、維持管理、防災、交通、BIM/CIM、i-Construction、自動運転などをキーワードに総会参加者アンケート結果を参考に決定します。開催方法は、Webによるライブ配信を予定しています。

■現場見学会

開催は、10月末頃を予定しております。中部地整の現場見学会メニューや機械化施工の現場など、中部地方で行われている土工事・構造物工事現場等を訪問予定です。

■広報

広報活動は、委員会・ワーキング活動を会員全員に伝達する事業として、「道路委員会だより」を1回発行する予定です。

■講師派遣

1) 愛知県建設技術研修

- 道路計画実務講座(5講座、5名)
- 設計エラー防止実務講座
道路/トンネル(1講座、1名)
- 土木施工技術実務講座
盛土、切土の設計と法面の安定(1講座、1名)

2) 三重県建設技術研修

- 道路計画設計(3講座、3名)
- 構造物設計(1講座、1名)

技術部会 河川委員会

河川委員長 石崎 伸明

河川委員会では、河川の専門技術に関する交流活動、現地見学会、技術セミナーの開催、業務技術発表会への参加等を通じて、会員の皆さんの技術交流と情報交換を図るとともに、協会活動の推進、中部地整との意見交換会等によって、コンサルタントの地位向上ならびに河川業務の円滑な実施のための環境づくりを目指し、活動しております。令和7年度は河川検討グループへ34社294名のご登録をいただきました。

以下に、令和7年度下半期の主な活動と令和8年度上半期の主な活動予定についてご報告します。

令和7年度下半期の主な活動報告

■河川委員会

委員会は9月から12月までに計4回開催し、活動計画の策定と報告等を行いました。

■河川技術セミナー

「令和7年度河川技術セミナー」は、下記の2名を講師にお招きし、集合とオンラインを併用したハイブリッド形式で実施しました。

- 開催日: 令和7年11月26日(水) 13:00～
- 会 場: ウィンクあいち
- 講師/演題: ①国土交通省中部地方整備局 河川部
河川情報管理官 伊藤 敏弘 氏
「流域総合水管理の推進」
- ②京都大学 防災研究所
附属水資源環境研究センター
角 哲也 特定教授
「流域総合水管理に資するダム管理の高度化」
- 参加者: 会場 66名(会員、官公庁、非会員)
Web申込者 232名
(会員、官公庁、大学、非会員)



伊藤河川情報管理官の講演



角特定教授の講演

■分科会活動

[第1分科会(治水・利水・環境等の調査・計画)]

第1分科会は、中部大学から武田教授をお招きして実施しました。

- 開催日:令和7年11月17日(月)
- 会場:アレックスビル 1階会議室
- 開催方法:集合+オンライン(ハイブリッド形式)
- 講師/演題:中部大学 工学部 都市建設工学科
武田 誠 教授
「地下空間を考慮した都市浸水解析と
避難シミュレーション」
- 参加者:会場 20名、Web申込者 101名

[第2分科会(河川、砂防施設の構造計画・設計)]

第2分科会は、土木研究所より中村グループ長を講師にお招きして実施しました。

- 開催日:令和7年10月24日(金)
- 会場:名古屋駅 名駅花車デザイン会議室
- 開催方法:集合+オンライン(ハイブリッド形式)
- 講師/演題:国立研究開発法人 土木研究所
流域水環境研究グループ
グループ長 中村 圭吾 氏
「ネイチャーポジティブな川づくり・流域づくり
～3次元川づくりの可能性～」
- 参加者:会場 32名、Web申込者 107名

■河川見学会

令和7年度の河川見学会は、以下のとおり開催しました。

- 開催日:令和7年10月31日(金)
- 場所:新水門川排水機場
(国土交通省 木曽川上流河川事務所管内)
日光川2号放水路
(愛知県一宮建設事務所管内)
- 参加者:19名(10社)

■講師派遣

愛知県が開催する技術研修に講師を派遣しました。

建設技術研修			開催日
愛知県 (Web)	環境管理講座	公共事業と環境	R7.10.28
		自然環境再生工法	

■広報活動(活動報告)

河川委員会と会員の方々の連絡役として、行事予定と活動報告等の情報がまとまった段階で、「活動報告」を建設コンサルタント協会中部支部のホームページに掲載します。

■第35回 建設コンサルタント業務技術発表会

令和7年10月28日に開催された業務技術発表会の業務技術部門で、優秀賞をいただきました。

- 優秀賞 大日コンサルタント(株) 日比野 翔悟 氏
「中山間地域の中小河川における
新しい流域治水検討フロー」

■対外活動

[建設技術フェア 2025in中部]

令和7年12月4日、5日に開催された建設技術フェアの学生交流ひろばで、建設コンサルタントの立場や役割等の説明を行いました。

[建設コンサルタントフェア 2025in中部]

令和7年11月8日に開催された建設コンサルタントフェアで、展示パネルの説明を行いました。

令和8年度上半期の主な活動予定

令和8年度は、当検討グループへ31社284名のご登録をいただいております。

今年度の委員会活動は、令和7年度と同様、会議とWebのハイブリッド形式を基本に行う予定です。

■委員会活動:4～8月の間で5回開催予定

■令和8年度 河川検討グループ総会

7月8日(水)に開催予定

■講師派遣:中部地整・愛知県の技術研修への講師派遣

技術部会 構造土質委員会

構造土質委員長 山本 高由

構造土質委員会は、「橋梁をはじめとする構造物関係技術者の技術の研鑽・向上、ならびに会員相互の交流」を活動方針として、構造土質検討グループ会員に向けた橋梁・構造物設計に関する講習会や現場見学会などの行事の企画・運営、および中部地方整備局等との業務改善に関する意見交換などの対外活動を通して、会員の皆様の資質向上、並びに建設コンサルタントの地位向上を目指して、委員長以下20名にて活動しています。

令和8年度は、構造土質検討グループへ40社303名と多くの方々にご登録いただいています。

以下に昨年度下半期の主な活動と、今年度上半期の活動予定についてご報告します。

令和7年度下半期の主な活動報告

■委員会活動

10月～12月までの毎月1回、役員会・技術部会報告、対外活動などの報告、技術講習会の立案検討などについて討議しました。

■コンサルタント業務技術発表会

技術部会主催の4委員会合同行事である業務技術発表会を開催しました。

- 開催日：令和7年10月28日(火) 13:30～17:30
- 場 所：愛知県産業労働センター(ウインクあいち)

■現場見学会

日本車輛製造(株)衣浦製作所の工場と、伊勢大橋長良川鋼上部工事の現場を見学しました。いずれも冒頭で概要説明を賜り、その後、各施設の詳細を見学しました。

- 日 時：令和7年11月25日(火) 8:10～17:45
- 場 所：見学① 日本車輛製造(株)衣浦製作所
見学② 伊勢大橋長良川鋼上部工事
- 参加者：35名(15社)
- 内 容：見学① 鋼橋の製作工場
見学② 鋼橋の架設現場(送出し架設工法)

見学①では、まず、座学にて架橋工事全体の①製作図⇒②加工⇒③組立・溶接⇒④塗装⇒⑤運搬⇒⑥架設を解説頂きました。製作過程において、切断・孔明けのNC化や仮組立シミュレーションが実仮組立と同等の精度であるとの説明を受けました。

座学後、工場に移動して、②～④の工程を確認し、溶接しやすい図面と設計が製作効率向上に有効であることを伺いました。



工場見学状況(座学)

見学②では、まず、座学にて、桑名東部拡幅事業について説明を受け、長良川架橋工事で施工期間が非出水期に限られるため、低水部では送出架設を採用しているとの説明を受けました。

現場見学では、架設済みの主桁上に配置された送出し装置、段階降下により桁を所定位置まで安全に着座させる仕組み、架設サイクル(地組⇒送出し⇒降下)の説明を受けました。また、次スパンの橋脚上に設置する支承や仮設備は台船+クレーンを使用しているなど、現場状況の特徴を捉えた架設を行っていることが確認できました。



現場見学状況(座学)

■講師派遣

1) 愛知県技術研修

愛知県建設技術研修に、6講座延べ6名の講師を派遣しました。

＜橋梁維持補修(橋梁点検)講座＞(10月16日)

橋梁定期点検について、点検調書作成説明

＜橋梁設計実務講座＞(10月21日)

- ・橋梁計画概論
- ・仮設構造物の計画設計
- ・橋梁上部工の設計
- ・橋梁下部工の設計
- ・耐震設計と補強工法

2) ニューブリッジ研修(12月10日)

ニューブリッジ研修に、講師を派遣しました。

「橋梁保全技術研修(検査点検コース) 基準の変遷」

■構造土質委員会だより

委員会活動、各WG開催行事の報告等について、「令和7年度構造土質委員会だより」を作成し、HPに掲載しました。

■対外活動

1) 建設技術フェア2025in中部 学生交流ひろば

建設技術フェアに委員を派遣しました。

- 開催日: 令和7年12月4日(木)～12月5日(金)

2) 建コンフェア2025

建コンフェアに委員を派遣しました。

- 開催日: 令和7年11月8日(土)

令和8年度上半期の主な活動予定

■定例委員会の開催

4月～9月の間で毎月1回(対面+Web併用)開催予定です。

■令和8年度 構造土質検討グループ総会

- 開催日時: 令和8年7月2日(木) 14:30～
- 会場: 今池ガスビル(ダイヤモンドルーム)
- 内容: 1. 令和7年度活動報告
2. 令和8年度活動計画
3. 講演「PC構造における緊張解析の現状」
名城大学 理工学部 社会基盤デザイン工学科
石川 靖晃 教授

■第1回技術講習会

- 開催日: 令和8年8月下旬予定
- 開催方法: Microsoft TeamsによるWeb配信

■現場見学会

見学会は、8月下旬～11月下旬に開催を予定しています。
場所は、構造土質委員会にて検討していきます。

■講師派遣

技術研修に、講師を派遣予定です。

1) 愛知県技術研修

＜事例でわかる土木設計実務講座＞(7月7日)

- ・設計事例演習・解説

＜設計エラー防止実務講座＞(7月10日)

- ・エラー防止への対応について
- ・土質・地質調査の計画、実施及び結果の評価
- ・橋梁

2) ニューブリッジ研修(年5回)

「橋梁保全技術研修(検査点検コース) 基準の変遷」

■各種発注機関との意見交換会

中部地方整備局、各地方自治体(愛知県、三重県)、NEXCO中日本名古屋支社との意見交換会等を随時開催していきます。

中部地方整備局とプレストレスト・コンクリート建設協会との3者による意見交換会を年1回実施していきます。

■建コン本部

改訂道路橋示方書WGを開催予定です。

技術部会 **都市計画委員会**都市計画委員長 **河村 和紀**

都市計画委員会では、都市整備WG、交通WG、ランドスケープWGの3つのワーキングで実施する専門技術に関する交流活動、見学会や講習会の開催等を通じて、会員の皆さんの技術交流と情報交換を図るとともに、(一社)建設コンサルタンツ協会中部支部の活動を推進することによって、建設コンサルタントの地位向上ならびに都市計画業務の円滑な実施のための環境づくりを行っています。

都市計画検討グループは、令和8年度263名・31社(令和7年度288名・31社)のご登録をいただきました。

令和7年度下半期の主な活動報告**■都市計画委員会**

下半期(10月～3月)の委員会は3回開催し、各WG活動結果の報告、課題、今後の対応や都市計画たよりの発行などについて協議をしました。

■第35回建設コンサルタント業務技術発表会

第35回建設コンサルタント業務技術発表会において、都市計画分野からは、最優秀賞 小林高浩さん(株式会社オオバ)、優秀賞 石川空さん(日本工営都市空間株式会社)が受賞されました。(おめでとうございます!)

都市計画分野は、発表論文が5編あり、建コン中部支部HPにて公開しておりますので、是非ご確認下さい。

- 日 時: 令和7年10月28日(火) 13:30～19:15
- 場 所: 愛知県産業労働センター(ウインクあいち)

■ワーキング活動**1) 都市整備WG**

本活動は、広島市都心部の官民連携によるまちづくりの取り組みや、トランジットパーク構想、公共空間を活用した都市再生へのヒントを学ぶため、講習会・見学会を開催しました。

- 日 時: 令和7年11月21日(金) 10:30～16:30
- 場 所: 講習①: 広島YMCA国際文化センター本館
講習②: エディオンピースウィング広島会議室
見学①: ひろしまスタジアムパーク、
ひろしまゲートパーク
見学②: 広島駅南口、周辺の公開空間

- テーマ: 広島市都心部におけるまちづくりを学ぶ

- 講 師: 広島市都市整備局

課長 水口 直也 氏、主査 小平 耕平 氏
エリアプラットフォーム・カミハチキテル
若狭 利康 氏
(一社)カミハチキテル 日高 洋 氏
広島市中央公園エリアマネジメント協議会
田儀 慶樹 氏

- 参加者: 29名、13社



講習会の様子



ひろしまゲートパーク

2) 交通WG

本活動は、自転車を活用したまちづくりについて、その役割や可能性への理解を深め、安全で快適な利用環境の整備を通じた、まちの魅力向上や回遊性向上の考え方を学ぶため、講習会を開催しました。

- 日 時: 令和7年11月12日(水) 13:30～17:00
- 場 所: 金山南ビル14階 名古屋都市センター
- テーマ: 自転車で広がる まちの魅力発見
- 講 師: 株式会社建設技術研究所(都市計画委員)
大脇 鉄也 氏
特定非営利活動法人市民・自転車フォーラム
木村 雄二 氏

愛知住まい・まちづくりコンサルタント協議会
三田 祐子 氏

●参加者:23名、13社



講習会の様子



集合写真

3)ランドスケープWG

本活動は、岐阜市の金公園・岐阜公園を事例に、都心部のオープンスペースが持つ可能性について、官民連携や防災拠点としての役割など、回遊性向上に向けた取組を学ぶため、講習会・見学を開催しました。

- 日 時:令和7年10月31日(金) 13:30～17:00
- 場 所:見学:岐阜公園(岐阜城楽市)、
金公園(岐阜県岐阜市)
- 講 習:グラスル35 3F
柳ヶ瀬健康運動施設「ウゴクテ」すこやか交流室
- テーマ:岐阜市のセンターゾーンを支える歴史公園と
防災公園を学ぶ
- 講 師:岐阜市歴史まちづくり課
課長 水野 氏、係長 鈴木 氏
公園整備課
係長 平松 氏
名鉄都市開発(株)湯浅沿線開発2グループ長
- 参加者:27名(14社)



講演会の様子



建物と調和を図るシンボルツリー

■都市計画たよりの発行

委員会活動や各WG開催行事報告等について、令和8年3月に「都市計画たより」を発行しました。

令和8年度上半期の主な活動予定

■都市計画委員会

4月から9月までに5回の開催を予定し、令和7年度の振り返り、今年度の活動内容等について検討します。

■総会

対面形式により下記のとおりを実施する予定です。

- 日 時:令和8年7月8日(水) 13:15～19:00
- 内 容:①令和7年度の活動報告と令和8年度の活動方針
②令和7年度決算報告と令和8年度予算
③講演会:健康なランドスケープのビジョンの共有
名古屋大学 大学院環境学研究科
都市環境学専攻 宮脇 勝 准教授
④グループワーク:都市空間における
ランドスケープの価値
⑤懇親会

若手の会WG

委員 岩田 大輝
(技術部会所管)

「中部若手の会WG」は、令和8年度になり平成29年の発足から10年目(第6期目)に突入しました。

今期も前期と同様に15名(15社)の体制で活動します。令和7年度下半期の活動内容と令和8年度上半期の予定を報告します。

令和7年度下半期の主な活動報告

■建設コンWILLSUMMIT

1)目的

全国の若手の会各支部代表者が一堂に介し、支部活動事例の共有や意見交換会(グループワーク)等を通じた若手組織交流を図ることで、更なる建コン業界活性化を推進する場(毎年1回、「業界展望を考える若手技術者の会」主催による開催)に参加しました。

2)開催日時・開催場所

- 令和7年11月20日(木)～22日(土)
- 仙台市(意見交換くグループワーク)
- 石巻市、東松島市(震災復興現場見学)



WILLSUMMIT(グループワーク成果一例)

3)感想

全国の若手技術者との交流を通じて、建コン業界の魅力や建コン協会会員としての活動意義を再認識することができました。今後も熱い想いをもち、業界活性化に向けて若手の会の取り組みを続けていきたいと感じる機会となりました。

■建設技術フェア2025

1)開催日時・開催場所

- 令和7年12月4日(木)、12月5日(金)
- ポートメッセなごや第3展示館

2)開催概要

建設技術フェアにて、建設コンサルタンツ協会が出展しているブースに参加し、学生の方々に「建設コンサルタント」の仕事について説明を行いました。

3)感想

連日多くの学生がいっぱいしました。時間帯によって

ブースが満員だったり閑散としていたり、効率よく説明ができない時間帯が目立ったため、次回は時間を意識してより多くの学生に紹介できるようにしたいと思います。



建設技術フェア

■あいち建設未来サロン

1)開催日時、開催場所

- 令和7年11月28日(金)豊田工業高等専門学校
- 令和7年12月22日(月)名古屋工業高等学校
- 令和8年 1月26日(月)名古屋工業大学

2)開催概要

愛知県が主催する学生への業界PRの場で、就職活動を行う学生の方に“建設分野の魅力”を発信しました。

3)感想

参加された学生からは、建設業界、特に建コンの仕事内容について様々な質問をいただき、建コンへの関心の高さを感じました。今後も更なる建コンの認知度向上のため、同様の活動に継続的に参加していきたいと思います。



あいち建設未来サロン

令和8年度上半期の主な活動予定

昨年度下半期の状況等を踏まえて、以下の活動を予定しています。

■JOB Café

昨年度に引き続き、今年度も実施いたします。昨年度は各社夏のインターンシップより早い時期に開催した結果、多くの学生に参加いただくことができたため、本年度も同様の時期に開催予定です。(6/27(土))

■女性の会との合同勉強会

女性の会と合同で技術士試験に関する勉強会を実施いたします。合格者の体験談をもとに勉強方法などを学びます。

女性の会WG

サブリーダー 舟橋 美穂
(総務部会所管)

女性の会WGは、2017年の発足以来、女性技術者の働き方や業界全体の活性化等を目的として活動进行、令和8年度に10年目(第5期2年目)を迎えました。

以下に令和7年度下半期の活動内容、令和8年度上半期の活動予定についてご報告します。

令和7年度下半期の主な活動報告

■あいち建設みらいサロンへの参加

行政や建設企業、建設コンサルタントなどの建設分野に携わる技術者と学生が交流する「あいち建設みらいサロン」に女性の会も参加しました。仕事内容や働き方の説明を行い、学生たちの疑問等に答えました。

建設コンサルタントは資格取得の面で就職のハードルが高いというイメージが学生の中で多くありましたが、資格補助があることや仕事のやりがい等を伝え、建設コンサルタントへのイメージを変えることができたかと思ひます。この機会に建設コンサルタントに興味を持つ学生が少しでも増えると嬉しいでうす。

【参加校、日程】

- 梶山女学園大学 (令和 7年10月23日)
- 中部大学 (令和 7年10月29日)
- 愛知総合工科高等学校 (令和 7年11月 7日)
- 名古屋工業大学 (令和 8年 1月26日)



あいち建設みらいサロン@名古屋工業大学での様子

■建設コンサルタントフェア2025in中部

中日ビルで開催された建設コンサルタントフェアに女性の会メンバーも参加しました。

パネル展示やフォトコンテスト、液化化体験などを行い、一般の方に建設コンサルタント業界を認知してもらひいい機会となりました。

- 日 時: 令和7年11月8日(土)
- 場 所: 中日ビル 地下1階イベント広場

■建設技術フェア2025in中部への参加

建設技術フェア2025in中部に参加し、建設コンサルタンツ協会のブースにて、足を運んでくださった方々に建設コンサルタントの仕事や女性技術者の働き方等のPRを実施しました。多くの方に建コンのことを知ってもらひ、多くの学生が建設業界やコンサルタントを志望するきっかけになれば嬉しいと思ひます。

- 日 時: 令和7年12月4日(木)、12月5日(金)
- 場 所: ポートメッセなごや
- ブースへの来場者数: 12/4: 75名(学生40名、その他35名)
12/5: 81名(学生69名、その他12名)



建設技術フェア2025 建コンブースの様子

令和8年度上半期の主な活動予定

■若手の会との合同WG

女性の会WGの活動に加え、令和8年度は若手の会と協力して実施するイベントが多々あるため、合同WGを実施いたします。

■JOB Caféへの参加

若手の会が主催する「JOB Café」へ女性の会も参加予定です。就職活動を控えた学生に少しでも建コン業界を知ってもらひ機会になればと思ひます。

- 日 時: 令和8年6月27日(土) 14:30~17:00

■支部間交流

建設コンサルタンツ協会4支部(関東支部・中部支部・近畿支部・九州支部)間で意見交換会をWEBで開催予定です。各WGの活動報告を含め、意見を共有する場として、有意義な時間となるよう、開催テーマ等検討中です。

■産官三機関合同建設業職場体験実習への参加

学生が中部地方整備局・建設コンサルタント・ゼネコンの建設業界に関わる3業種について体験できる場に、女性の会も建コンの立場で参加予定です。

- 日 時: 令和8年9月15日(火)~17日(木)
- 下半期は以下のイベントに参加予定です。

■あいち建設みらいサロン

■建設技術フェア2026in中部

■土木のしごと魅力発信イベント(仮称)

	会 社 名	所 在 地	電 話 番 号	U R L
あ	(株)アイエスシイ	名古屋市昭和区福江2-9-33(nabi/白金2F)	052-882-1201	https://www.isc-ngo.co.jp/
	(株)愛河調査設計	名古屋市南区本地通6-8-1	052-819-6508	https://www.aiga-cc.co.jp/
	(株)葵エンジニアリング	名古屋市中村区佐古前町22-6	052-486-2200	https://www.aoi-eng.co.jp/
	(株)朝日設計コンサルタント	岐阜県岐阜市須賀4-8-12	058-275-1061	https://www.asahisc.co.jp/
	アジア航測(株)	名古屋市北区大曽根3-15-58(大曽根フロントビル)	052-919-0155	https://www.ajiko.co.jp/
	アローコンサルタント(株)	名古屋市熱田区新尾頭2-2-32(勢州館金山ビル内)	052-684-5684	https://www.arrow-c.co.jp/
	(株)石田技術コンサルタンツ	愛知県小牧市東新町50	0568-73-1085	https://www.itcnet.co.jp/
	いであ(株)	名古屋市港区入船1-7-15	052-654-2551	https://ideacon.jp/
	(株)イビスク	岐阜県大垣市築捨町3-102	0584-89-5507	https://www.ibisoku.co.jp/
	(株)ウエスコ	名古屋市中区錦1-2-34	052-221-7420	https://www.wesco.co.jp/
	エアロトヨタ(株)	名古屋市東区東大曽根町12-19(OZヒメノビル2F)	052-930-3431	https://www.aeroasahi.co.jp/
	(株)エイト日本技術開発	名古屋市中区錦1-11-20(平和不動産名古屋伏見ビル3F)	052-855-2261	https://www.ejec.ej-hds.co.jp/
	(株)NJS	名古屋市中区金山1-14-18(A-PLACE金山8F)	052-217-8610	https://www.njs.co.jp/
	NTCコンサルタンツ(株)	名古屋市中区錦2-4-15(ORE錦二丁目ビル4F)	052-229-1701	https://www.ntc-c.co.jp/
	応用地質(株)	名古屋市守山区瀬古東2-907	052-793-8321	https://www.oyo.co.jp/
	(株)オオバ	名古屋市中区錦1-19-24(名古屋第一ビル)	052-219-0083	https://www.k-ohba.co.jp/
	(株)大增コンサルタンツ	名古屋市中川区小本2-14-5	052-363-1131	https://www.ohmasu.co.jp/
	(株)オリエンタルコンサルタンツ	名古屋市中村区名駅南2-14-19(住友生命名古屋ビル)	052-564-7711	https://www.oriconsul.com/
か	開発虎ノ門コンサルタント(株)	名古屋市千種区今池4-4-9(パークフロント今池7F)	052-744-4811	https://www.kckk.co.jp/
	(株)カギテック	三重県松阪市田村町341-1	0598-23-1155	https://kagitec.jp/
	(株)片平新日本技研	名古屋市東区代官町35-16(第一富士ビル)	052-930-3701	https://www.katahira.co.jp/
	(株)カナエジオマックス	名古屋市中区千代田1-12-5	052-249-9611	https://www.kanal.co.jp/
	川崎地質(株)	名古屋市名東区上社2-184	052-775-6653	https://www.kge.co.jp/
	(株)環境アセスメントセンター	静岡県静岡市葵区清閑町13-12	054-255-3650	https://eac-net.co.jp
	(株)神田設計	名古屋市中区花の木1-3-5	052-522-3121	https://www.kanda-s.co.jp/
	(株)橋梁コンサルタント	名古屋市中村区名駅南1-16-30(東海ビル4F)	052-582-6886	https://www.kyoryo.co.jp/
	協和設計(株)	名古屋市中村区名駅4-2-25(名古屋ビルディング桜館12F)	052-220-1021	https://www.kyowask.co.jp/
	協和調査設計(株)	名古屋市中川区篠原橋通2-4-4	052-365-3711	https://www.ky-cs.co.jp/
	(株)近代設計	名古屋市中区錦1-11-20(平和不動産名古屋伏見ビル)	052-232-0921	https://www.kindai.co.jp/
	(株)建設環境研究所	名古屋市中区錦3-20-27(御幸ビル5F)	052-218-0666	https://www.kensetsukankyo.co.jp/
	(株)建設技術研究所	名古屋市中区錦1-5-13(オリックス名古屋錦ビル)	052-218-3833	https://www.ctie.co.jp/
	(株)興栄コンサルタント	岐阜県岐阜市中鶯4-11	058-274-2332	https://www.koei-con.co.jp/
	(株)国際開発コンサルタンツ	名古屋市中区錦3-4-6(桜通大津第一生命ビル3F)	052-209-6393	https://www.idec-inc.co.jp/
	国際航業(株)	名古屋市中区名駅2-27-8(名古屋プライムセントラルタワー11F)	052-747-3112	https://www.kkc.co.jp/
	国土防災技術(株)	名古屋市中東区上社2-148	052-799-8101	https://www.jce.co.jp/
さ	(株)三栄コンサルタント	岐阜県岐阜市水海道4-22-12	058-246-2558	https://www.sanei-consul.co.jp/
	サンコーコンサルタント(株)	名古屋市中区栄2-11-7(伏見大島ビル)	052-228-6131	https://www.suncoh.co.jp/
	(株)三進	岐阜県大垣市二葉町7-12	0584-73-3969	https://www.sansinn.co.jp/
	(株)三祐コンサルタンツ	名古屋市東区代官町35-16(第一富士ビル)	052-933-7801	https://sanyu.tcp.jp/
	(株)三洋開発	三重県津市津興275	059-225-3766	https://www.sanyoh-kaihatu.com
	ジェイアール東海コンサルタンツ(株)	名古屋市中村区名駅5-33-10(アクアタウン納屋橋)	052-746-7108	https://www.jrcc.co.jp/
	静岡コンサルタント(株)	静岡県三島市多呂128	055-977-8080	https://www.shizuoka-con.co.jp/
	柴山コンサルタント(株)	名古屋市東区白壁1-69	052-961-0111	https://www.shibayama-consul.co.jp/
	(株)修成建設コンサルタント	名古屋市中区丸の内2-20-2(オアシス丸の内NORTH3F)	052-220-2351	https://www.shusei.co.jp/
	(株)新日	名古屋市中川区山王1-8-28	052-331-5356	https://shinnichi.co.jp/
	杉山コンサルタンツ(株)	三重県津市久居新町680-4	059-255-1500	https://www.sugiyamaconsultants.com/website
	(株)スリーエスコンサルタンツ	名古屋市中村区名駅4-7-1(ミッドランドスクエア15F)	052-265-5566	https://www.sss-consultants.co.jp/
	セントラルコンサルタント(株)	名古屋市中区錦1-18-22(名古屋ATビル7F)	052-223-0380	https://www.central-con.co.jp/
	全日本コンサルタント(株)	三重県四日市市市柳町80	059-352-1052	https://www.zennippon-c.co.jp/
	(株)創建	名古屋市中区大須4-10-32	052-253-7124	https://www.soken.co.jp/

6 会員名簿一覧

	会社名	所在地	電話番号	URL
	(株)総合技術コンサルタント	名古屋市中区錦1-10-1(MIテラス名古屋伏見ビル3F)	052-211-7935	https://www.sogo-eng.co.jp/
	(株)創信	岐阜県岐阜市小野3-110-1	058-215-6130	https://www.sousinn.co.jp/
た	大同コンサルタンツ(株)	岐阜県岐阜市中鷗2-11	058-273-7141	https://daidocc.com/
	大日コンサルタント(株)	岐阜県岐阜市藪田南3-1-21	058-271-2501	https://www.dainichi-consul.co.jp
	大日本ダイヤコンサルタント(株)	名古屋市西区名駅2-27-8(名古屋プライムセントラルタワー18F)	052-581-8993	https://www.dd-con.co.jp/
	(株)拓工	名古屋市熱田区桜田町15-22	052-883-2711	https://www.c-takko.co.jp/
	中央開発(株)	名古屋市中村区牛田通2-16	052-481-6261	https://www.ckcnet.co.jp/
	中央コンサルタンツ(株)	名古屋市中区丸の内3-22-1	052-971-2541	https://www.chuoh-c.co.jp/
	中央復建コンサルタンツ(株)	名古屋市中区錦2-3-4(名古屋錦フロントタワー)	052-220-2920	https://www.cfk.co.jp/
	(株)中部テック	名古屋市名東区社台3-48	052-771-1251	https://www.chubu-tech.co.jp/
	中部復建(株)	名古屋市昭和区福江1-1805	052-882-6611	https://www.chubu-fk.co.jp/
	(株)長大	名古屋市中村区平池町4-60-12(グローバルゲート20F)	052-586-0700	https://www.chodai.co.jp/
	(株)千代田コンサルタント	名古屋市中区丸の内3-14-32(丸の内三丁目ビル)	052-221-1401	https://www.chiyoda-ec.co.jp/
	(株)テイク	岐阜県岐阜市橋本町2-8(濃飛ニッセイビル内)	058-214-6667	https://www.teikoku-eng.co.jp/
	(株)東京建設コンサルタント	名古屋市中区錦2-5-5(八木兵伝馬町ビル)	052-222-2771	https://www.tokencon.co.jp/
	(株)東日	静岡県沼津市大岡2240-16	055-921-8053	http://www.tohnichi-net.co.jp/
	(株)トニーチコンサルタント	名古屋市中区葵1-20-22(MIテラス名古屋葵5F)	052-898-3021	https://www.tonichi-c.co.jp/
	東洋技研コンサルタント(株)	名古屋市中区丸の内3-23-8(MLJ丸の内ビル7F)	052-228-3660	https://www.toyogiken-ccai.co.jp/
	(株)ドーコン	名古屋市中区錦3-1-30(錦マルエムビル)	052-265-7951	https://www.docon.jp
な	中日本建設コンサルタント(株)	名古屋市中区丸の内1-16-15(名古屋シミズ富国生命ビル)	052-232-6032	https://www.nakanihon.co.jp/
	(株)浪速技研コンサルタント	愛知県豊田市桜町2-54(松村ビル2B)	0565-41-4655	https://www.naniwa-giken.co.jp/
	南海カツマ(株)	三重県津市上浜町5-64-6	059-226-4854	https://www.nankai-katsuma.co.jp/
	(株)日本インシーク	名古屋市中区丸の内3-21-25(清風ビル6F)	052-951-3590	https://www.insiek.co.jp/
	日本工営(株)	名古屋市中区葵1-20-22	052-559-7300	https://www.n-koei.co.jp/
	日本工営都市空間(株)	名古屋市東区東桜2-17-14(新栄町ビル)	052-979-9111	https://www.n-koei.co.jp/urbanspace/
	日本交通技術(株)	名古屋市中村区椿町14-13(ウエストポイント1413)	052-451-9111	https://www.jtc-con.co.jp/
	日本振興(株)	名古屋市中村区名駅5-27-13(名駅錦橋ビル5F)	052-562-1191	https://www.nihon-shinko.com/
	(株)日本水工コンサルタント	名古屋市中村区竹橋町5-10(オイセタウンビル7F)	052-451-2391	https://www.nissui.co.jp/
	(株)ニュージェック	名古屋市中区錦2-9-29(ORE名古屋伏見ビル4F)	052-310-0990	https://www.newjec.co.jp/
は	(株)パートナーズ	愛知県豊橋市三ノ輪町字本興寺41-1(CREST.1第1丸中ビル4F)	0532-39-9900	https://partners-tokai.com
	(株)ハイウェイ・エンジニアリング	名古屋市中区錦1-20-10(HR・NET伏見ビル6F)	052-232-1891	https://hw-eng.jp/
	パシフィックコンサルタンツ(株)	名古屋市西区名駅1-1-17(名駅ダイヤメイトビル)	052-589-3111	https://www.pacific.co.jp/
	(株)パスコ	名古屋市中区錦2-2-13(名古屋センタービル10F)	052-239-5140	https://www.pasco.co.jp/
	藤コンサル(株)	名古屋市中村区名駅3-22-8(大東海ビル)	052-433-1261	https://www.fuji-con.co.jp/
	不二総合コンサルタント(株)	静岡県浜松市中央区初生町889-2	053-439-6111	https://fujisougou.co.jp/
	(株)フジヤマ	静岡県浜松市中央区元城町216-19	053-454-5892	https://www.con-fujiyama.com/
	(株)復建エンジニアリング	名古屋市中区栄2-5-13(アイ・エスビル7F)	052-203-0651	https://www.fke.co.jp/
	(株)復建技術コンサルタント	名古屋市中区錦1-8-8(いちご錦ファーストビル5F)	052-222-6040	https://www.fgc.jp/
	復建調査設計(株)	名古屋市東区葵2-12-1	052-931-5222	https://www.fukken.co.jp/
ま	(株)間瀬コンサルタント	名古屋市中村区名駅南1-16-28(EDGE名駅4F)	052-414-6020	https://www.masecon.co.jp/
	丸栄調査設計(株)	三重県松阪市大町102-2	0598-51-3786	https://maruei-c.co.jp/
	三井共同建設コンサルタント(株)	名古屋市中区丸の内3-20-3(BPRプレイス久屋大通7F)	052-953-1060	https://www.mccnet.co.jp/
	明治コンサルタント(株)	名古屋市中区大須4-10-32(上前津KDビル310号)	052-249-3720	https://www.meicon.co.jp/
	(株)メイホーエンジニアリング	岐阜県岐阜市吹上町6-21	058-253-8811	https://www.meihoeng.co.jp/
	(株)名邦テクノ	名古屋市南区大磯通6-9-2	052-823-7111	https://www.meiho-techno.co.jp/
や	八千代エンジニアリング(株)	名古屋市中区新栄町2-9(スカイオアシス栄9F)	052-950-2150	https://www.yachiyo-eng.co.jp/
	(株)ユニオン	岐阜県岐阜市西河渡2-57	058-253-3190	https://www.theunion.co.jp/
わ	(株)若鈴	三重県津市広明町345-1(若鈴ビル)	059-226-4101	https://www.wakasuzu.co.jp/
	若鈴コンサルタンツ(株)	名古屋市西区中小田井5-450	052-501-1361	https://wakasuzuc.jp/

事務局だより



●【中部支部の会員数】

99社(令和8年5月 現在)

●【令和8年度中部支部定時総会】

令和8年度定時総会を令和8年4月23日(木)にKKRホテル名古屋で開催しました。

議案として、「令和7年度事業報告及び収支決算承認の件」、「『一般社団法人建設コンサルタンツ協会中部支部入会金及び会費内規』の一部改正(案)承認の件」、「令和8年度事業活動方針(案)承認の件」及び「役員補選(案)承認の件」について審議が進められた結果、原案どおり可決承認されました。

支部の活動報告では、副支部長及び担当部会長から中部地方整備局等の発注者との意見交換会の開催、災害対策基本法等の改正に伴う中部地方整備局との災害協定の拡充、大学等における業界説明会の開催、「建設コンサルタントフェア」等の広報活動の実施、「中部圏インフラ整備構想」の発表会の開催、中部地方整備局、愛知県、三重県、静岡県等の技術研修への講師派遣などについて報告されました。



牧村支部長挨拶

令和8年度の活動は、従来活動を基本としつつ、経費削減や地域コンサルタントが、中部支部に加盟するメリットを享受できる取組にも留意し、活動を展開することとされました。

また、定時総会終了後、中部支部主催のフォトコンテスト2025の表彰式を開催したほか、春期講演会として、中部地方整備局及び東京大学大学院教授小川光様より講演をいただきました。

●【令和8年度における中部支部の主な活動(予定)】

4月23日	中部支部定時総会
9月 1日	建コン協災害時対応演習
10月19日	地方ブロック「要望と提案」意見交換会
10月22日	第36回建設コンサルタント業務技術発表会
11月 9日	コンプライアンス講習会
1月18日	賀詞交換会

なお、この他にも各委員会主催の講習会、見学会等を予定しております。事務局から会員企業の皆様に開催案内を差し上げますので、多数のご参加をお待ちしております。

【編集後記】

晩夏の候、残暑の厳しい日が続いておりますが、皆様におかれましてはお変わりなくお過ごしのことと存じます。日頃より本誌の発行にご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

本号では、名古屋都心部における新たな公共交通として注目されるSRTについて、その構想から社会実験、運行開始、さらにまちづくりとの連携に至るまでの歩みを紹介いただきました。都心の大きな変化の中で、交通とまちづくりを一体的に進める取組として大変興味深い内容となりました。

SRTは、「移動そのものの価値」を生み出し、沿線のにぎわいや地域の活動と結びつくことで、まちの魅力向上につなげようとするものです。車両や停留所のデザイン、情報発信の工夫にもその考え方が表れており、多くの人に新たな気づきや広がりをもたらす可能性を感じさせます。

また、社会実験や段階的な導入を重ねながら、利用者や地域との関係を丁寧に築いてこられた点も印象的でした。こうした積み重ねは、今後の交通とまちづくりを考えるうえでも大きな示唆を与えてくれます。

今後、SRTがまちとともにどのように成長していくのか、その展開にも注目してまいりたいと思います。本特集が一つのきっかけとなれば幸いです。

発刊に際しましてご執筆・ご協力いただきました皆様に、編集委員一同より心から御礼申し上げます。
(S.W)

【編集】対外活動部会編集委員会

部 会 長	横 山 幸 泰	(株) 東京建設コンサルタント	委 員	山 下 達	中日本建設コンサルタント(株)
副 部 会 長	杉 山 敏 彦	大日本ダイヤコンサルタント(株)	委 員	盛 田 倫 由	中 央 コ ン サ ル タ ン ツ (株)
編 集 委 員 長	伊 藤 博 之	(株) ニ ュ ー ジ ェ ッ ク	委 員	遠 藤 徹 也	大日本ダイヤコンサルタント(株)
編 集 副 委 員 長	坂 本 憲 二	中央復建コンサルタンツ(株)	委 員	山 口 洋 毅	(株) 環境アセスメントセンター
委 員	太 刀 掛 泰 清	セントラルコンサルタント(株)	委 員	大 日 川 靖	日 本 工 営 都 市 空 間 (株)
委 員	古 川 真 人	(株) ア イ エ ス シ イ	委 員	渡 邊 智	(株) 葵 エ ン ジ ニ ア リ ン グ
			委 員	小 森 誠	(株) テ イ コ ク

読者の皆様のご意見をお待ちしています。

◇読者アンケート

読者アンケートにご協力お願いします。あなたのご意見が「図夢in中部」を作ります。特に、本誌や建設コンサルタント支部活動への要望や提案など、個性的な意見を沢山お待ちしております。一般社団法人建設コンサルタンツ協会中部支部ホームページの「読者アンケート」までどしどしお寄せください。

●すべての応募先、お問合せは…

(一社)建設コンサルタンツ協会 中部支部 編集委員会

名古屋市中区丸の内一丁目4番12号(アレックスビル3F) TEL.052-265-5738 FAX.052-265-5739

ホームページ <https://www.ccainet.org/>
メール info@ccainet.org

JCCA

図夢 in 中部 Vol.57

発行日：2026年8月12日

一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 中部支部